

厚生労働科学研究費補助金

<平成 24 年度>

医療技術実用化総合研究事業（臨床研究推進研究事業）

<平成 25 年度、平成 26 年度>

医療技術実用化総合研究事業（臨床研究・治験推進研究事業）

総合研究報告書

再発卵巣癌・卵管癌・腹膜癌の予後改善のための新たな治療法確立の
ための研究

H24 - 臨研推 - 一般 - 008

研究代表者 藤原恵一 埼玉医科大学国際医療センター
婦人科腫瘍科 教授

研究要旨

再発卵巣癌・腹膜癌・卵管癌に対する Bevacizumab (Bev) 投与のランダム化第 Ⅲ 相試験であり、パクリタキセルとカルボプラチン併用 (TC) 療法に Bev の併用および Bev の維持療法の Second line としての有用性を検証する。同時に、再発癌に対する手術療法の有用性を評価する、厚生労働省先進医療 (旧高度医療評価制度) に基づく第 Ⅲ 相比較試験である。

A. 研究目的

上皮性卵巣癌は初回化学療法によく奏効するものの、半数以上の症例が再発する。治療後 6 カ月以上経過して再発するものを化学療法感受性再発例として取り扱い、現時点ではパクリタキセルとカルボプラチン併用 (TC) 療法が標準化学療法である。しかし、再発後の生存期間の中央値は約 2 年と予後不良であるので、延命効果に寄与する薬物療法の開発が求

められている。Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF) に対するモノクローナル抗体であるベバシズマブ (Bev) は再発卵巣癌、腹膜癌、卵管癌に対して行われた第 Ⅲ 相試験において高い有効性を示している。最近、2 つのランダム化第 Ⅲ 相比較試験 (GOG-0218, ICON-7) の成績が報告され、初発進行上皮性卵巣癌・腹膜癌に対する TC 療法に Bev の上乗せおよび維持療法が有意に無病生存率を

改善することが明らかとなった。本研究はそれに続く世界初の再発卵巣癌・腹膜癌・卵管癌に対する Bev 投与のランダム化第 相試験(GOG213 試験)であり、TC 療法に Bev の併用および Bev の維持療法の Second line としての有用性を検証する。同時に、再発癌に対する手術療法の有用性を評価する意欲的な研究である。

本試験は先進医療(旧高度医療評価制度)の下で遂行した。

B. 研究方法

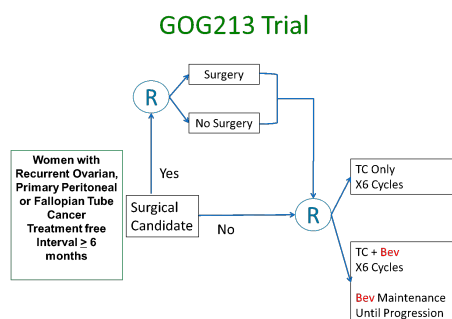


図 1

本試験の対象症例は、プラチナフリー期間 6 ヶ月以上のプラチナ感受性再発卵巣癌、卵管癌、腹膜癌である。

研究者が、再発腫瘍が摘出手術の候補と考えられた場合は、手術を行うかどうかのランダム化の対象となる。そのいずれに割り付けられた場合も、手術適応症例でない場合のいずれも、化学療法として TC 療法 対 TC+Bev のランダム化が行われる。(図 1)

目標症例は、GOG 全体で 927 例(うち手術ランダム化症例 267 例) 我が

国から、50 例登録を目標とする。

本試験は、北里大学臨床研究機構臨床試験コーディネーティング部の管理の下、GOG Japan 施設で遂行し、すべてのデータは米国 GOG Data Center に送られ、独立したデータ管理と統計解析を行う。

(倫理面への配慮)

本試験は、臨床研究に関する倫理指針に則り施行される。候補患者への説明は各施設の倫理委員会で承認された説明文を用い、文書で同意を得る。患者には、同意の自由、同意撤回の自由、本試験参加による利益、不利益を伝える。個人情報適切に管理される。利益相反は各施設によって審査管理される。

C. 研究結果

本試験は、米国 GOG では 2008 年 9 月に開始された(NCT00565851)。

本邦においては、Bev は NCI から輸入されたものを使用するので、患者には無償提供出来るよう、2009 年より先進医療(旧高度医療評価制度)への申請を行い、2010 年 1 月 29 日に開催された高度医療評価会議において本研究が承認され、引き続き 2010 年 4 月 16 日に開催された先進医療専門家会議において承認された。

これを受け、埼玉医科大学国際医療センターで本試験を開始し、その後、13 施設で開始した。現在日本からの登録症例数は 41 例である。

GOG 全体では 2015 年 3 月 2 日現在までに 886 例が登録されている。Bev

投与のランダム化対象登録症例数はすでに目標を達成(674例)したため、2011年8月より、手術施行のランダム化のみが行われるようになり、プロトコルが改訂された。これらの症例に対しては、希望のある患者には全員Bevが使用出来ることとなっている(図2)。

平成25年11月8日
 平成26年2月14日
 平成26年4月11日
 平成26年6月20日
 平成26年8月22日
 平成26年10月24日
 平成27年1月16日
 平成27年3月20日

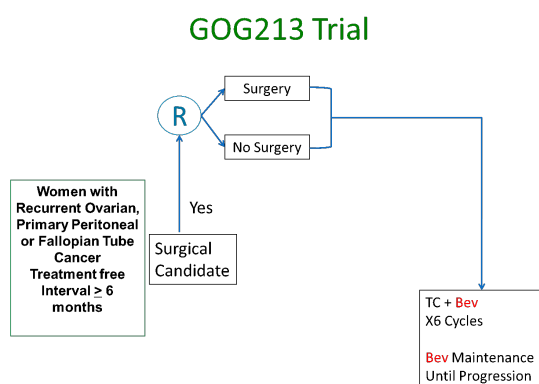


図2

また、本試験の実施母体であるGOGのBusiness Meeting(下記日程参照)に研究者を派遣し、情報収集するとともに意見交換を行い、現状と問題点の把握、解決策について検討した。

平成24年7月26日～7月29日
 平成25年1月24日～1月27日
 平成25年7月18日～7月20日
 平成26年2月6日～2月9日
 平成26年7月10日～7月13日
 平成27年2月5日～2月8日

国内の進捗状況の確認、安全性情報の徹底を目的として、GOG Japan委員会を以下のごとく開催した。

平成24年5月18日
 平成24年7月21日
 平成24年9月7日
 平成24年10月27日
 平成24年12月14日
 平成25年2月15日
 平成25年4月12日
 平成25年6月7日
 平成25年7月12日
 平成25年9月20日

本試験の対象となる患者数は限られているため、JGOGのネットワークを用いて、協力施設への紹介を促すとともに、症例紹介の依頼パンフレットを作成し、地方研究会の機会に配布した。また、年2回行われる日本婦人科腫瘍学会などの全国学会に、JGOGのブースを出展し、ポスター掲示を行うと共に、パンフレットを配布し、日本全国の腫瘍専門医に本試験の衆知を図り、症例紹介を依頼した。

さらに、平成25年9月27日、北里大学薬学部において、本研究のPIで

ある MD Anderson Cancer Center の Coleman 博士を招聘し、GOG213 試験 Investigator Meeting を開催し、本試験の重要性を研究者に対してあらためて強調してもらうことにより、いっそうの症例登録を促した。

GOG Japan が医師主導治験として参加した GOG218 試験結果を基にして 2013 年 11 月、ベバシズマブが保険承認されたことを受け、厚生労働省より先進医療の取り下げを指示されたため、平成 26 年 3 月 6 日現在新規登録を中止した。試験薬提供元である米国 NCI と交渉したが、試験途中での薬剤供給元の変更について理解を得るのに長期間を要した。平成 26 年 10 月になって NCI から、市販のベバシズマブ(アバスチン)を使用することの許可が得られたため、厚労省医政局、保険局と協議を行い、平成 26 年 12 月末日をもって先進医療を終了とすることとなった。引き続き、一般臨床試験として、症例登録を平成 27 年 1 月 1 日より再開した。

本試験ベバシズマブランダム化の部分の解析は平成 27 年 3 月末には発表される予定である。また、手術ランダム化部分の症例登録は平成 27 年夏過ぎには終了する予定である。

D. 考察

我が国において卵巣癌は増加傾向にあり、毎年 7,400 人が罹患し、4,400 人が死亡している(がんの統計 2005 年度版がん研究振興財団)。卵巣癌は

初回治療によく奏効するものの、半数以上の症例が再発する。治療後 6 カ月以上経過して再発するものを化学療法感受性再発例として取扱い、タキサン、プラチナの併用療法が標準化学療法である(卵巣がん治療ガイドライン 2010 日本婦人科腫瘍学会編)。しかしながら、進行卵巣癌の 5 年生存率は 20%でしかなく、再発後の生存期間の中央値は約 2 年と予後不良である。したがって、再発卵巣癌に対して高い抗腫瘍効果が得られ、延命効果に寄与する薬物療法の開発が強く求められる。

Bev は Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF) に対するモノクローナル抗体であり、腫瘍増殖を促す血管新生を抑制する。これまで再発・難治性卵巣癌に対して行われた Bev 単剤投与の第 Ⅲ 相試験 (Burger. J Clin Oncol. 2007) では、21%と固形癌の中で最も高い奏効率を示し、卵巣癌に対する画期的新薬として期待される。最近、海外の 2 つのランダム化第 Ⅲ 相比較試験において、初発進行上皮性卵巣癌・腹膜癌に対するパクリタキセルとカルボプラチン併用療法にベバシズマブの併用および維持療法が有意に無病生存率を改善した。(GOG-0218, ICON7 試験)

われわれは、この GOG-0218 試験を、医師主導治験として行った実績がある。本試験はそれに続く、世界初の **再発**上皮性卵巣癌・腹膜癌・卵管癌に対するベバシズマブ投与の有用性を検証するためのランダム化第 Ⅲ 相試

験である。本研究は先進医療 B(旧高度医療評価制度)の承認を受け、国内 13 医療機関において実施している。しかも米国 NCI から無償提供された試験薬を輸入して実施する国際共同試験であった。

すなわち、本試験は我が国の新しい臨床試験制度に基づき、さらに米国 NCI から輸入した試験薬を用いて行う、我が国発の国際共同ランダム化比較試験であり、今後新たな新薬開発試験実施体制としてモデルとなり得ると考えられる。

一方、GOG-218 試験結果を受けて、ベバシズマブが保険承認を受けたがその適応症として初回治療例の限定がなかったため、再発例に対しても保険が適応されることとなった。それに伴い、先進医療の取り下げを指示されたが、NCI が**無償提供**しているベバシズマブを用いる事が必須である本試験において、市販のベバシズマブを使用することについてスポンサーである NCI の理解を得るのに時間を要した。すなわち、保険承認になった場合、公的機関から**無償提供されている**薬剤が使えず、**患者負担が増加**することとなる点について理解してもらうのが困難であった。国民皆保険制度と混合医療禁止という、日米の保険医療制度の違いが、国際共同試験のハードルになる可能性がある一事例と考えられる。

先進医療は取り下げざるを得なかったが、保険承認の有無にかかわらず、再発卵巣癌に対するベバシズマブの

有用性を検討することは医学的に極めて重要であり、引き続き本試験完結に向けて最大限の努力を続けるべきであると考ええる。

E. 結論

世界初の再発上皮性卵巣癌・腹膜癌・卵管癌に対する TC 療法にベバシズマブ投与を加える有用性を検証するランダム化第 相試験 (GOG213 試験) を、米国 NCI から無償提供された試験薬を輸入して実施する国際共同試験として、我が国における新たな臨床試験制度である先進医療(旧高度医療評価制度)の承認を受け、先進医療 B として国内 13 医療機関において実施した。前述したように、先進医療は取り下げざるを得なかったが、本試験は一般臨床試験として継続しており、一日も早い登録終了を目指し、結果を得ることが肝要である。

F. 健康危険情報

米国、我が国における Bevacizumab の有害事象報告を定期的に配信するとともに、本試験のモニタリングを定期的に施行し、安全性情報の共有を図っている。

G. 研究発表

(研究代表者：藤原恵一)

1. Sasaki Y, Miwa K, Yamashita K, Sunakawa Y, Shimada K, Ishida H, Hasegawa K, Fujiwara K, Kodaira M, Fujiwara Y, Namiki M,

- Matsuda M, Takeuchi Y, Katsumata N. A phase I study of farletuzumab, a humanized anti-folate receptor α monoclonal antibody, in patients with solid tumors. *Invest New Drugs*. 2014 Nov 9. [Epub ahead of print]
2. Satoh T, Takei Y, Treilleux I, Devouassoux-Shisheboran M, Ledermann J, Viswanathan AN, Mahner S, Provencher DM, Mileshkin L, Avall-Lundqvist E, Pautier P, Reed NS, Fujiwara K. Gynecologic Cancer InterGroup (GCIG) Consensus Review for Small Cell Carcinoma of the Cervix. *Int J Gynecol Cancer*. 2014 Nov;24(9 Suppl 3):S102-8.
 3. Fujiwara H, Yokota H, Monk B, Treilleux I, Devouassoux-Shisheboran M, Davis A, Kim JW, Mahner S, Stany M, Pignata S, Ray-Coquard I, Fujiwara K. Gynecologic Cancer InterGroup (GCIG) Consensus Review for Cervical Adenocarcinoma. *Int J Gynecol Cancer*. 2014 Nov;24(9 Suppl 3):S96-S101.
 4. Hasegawa K, Nagao S, Yasuda M, Millan D, Viswanathan AN, Glasspool RM, Devouassoux-Shisheboran M, Covens A, Lorusso D, Kurzeder C, Kim JW, Gladieff L, Bryce J, Friedlander M, Fujiwara K. Gynecologic Cancer InterGroup (GCIG) Consensus Review for Clear Cell Carcinoma of the Uterine Corpus and Cervix. *Int J Gynecol Cancer*. 2014 Nov;24(9 Suppl 3):S90-5.
 5. Nagao S, Nishikawa T, Hanaoka T, Kurosaki A, Iwasa N, Hasegawa K, Fujiwara K. Feasibility Study of Combination Chemotherapy with Paclitaxel, Doxorubicin and Cisplatin without Prophylactic Granulocyte Colony-stimulating Factor Injection for Intermediate-to-high Risk or Recurrent Endometrial Cancer. *Jpn J Clin Oncol*. 2014 Nov;44(11):1040-4.
 6. Fujiwara K, Monk B, Devouassoux-Shisheboran M. Adenocarcinoma of the Uterine Cervix: Why is it different? *Curr Oncol Rep*. 2014;16:416-424
 7. du Bois A, Floquet A, Kim JW, Rau J, Del Campo JM, Friedlander M, Pignata S, Fujiwara K, Vergote I, Colombo N, Mirza MR, Monk BJ, Kimmig R, Ray-Coquard I, Zang R, Diaz-Padilla I, Baumann KH, Mouret-Reynier MA, Kim JH, Kurzeder C,

- Lesoin A, Vasey P, Marth C, Canzler U, Scambia G, Shimada M, Calvert P, Pujade-Lauraine E, Kim BG, Herzog TJ, Mitrica I, Schade-Brittinger C, Wang Q, Crescenzo R, Harter P. Incorporation of Pazopanib in Maintenance Therapy of Ovarian Cancer. *J Clin Oncol*. 2014 Oct 20;32(30):3374-82.
8. Monk BJ, Poveda A, Vergote I, Raspagliesi F, Fujiwara K, Bae DS, Oaknin A, Ray-Coquard I, Provencher DM, Karlan BY, Lhommé C, Richardson G, Rincón DG, Coleman RL, Herzog TJ, Marth C, Brize A, Fabbro M, Redondo A, Bamias A, Tassoudji M, Navale L, Warner DJ, Oza AM. Anti-angiopoietin therapy with trebananib for recurrent ovarian cancer (TRINOVA-1): a randomised, multicentre, double-blind, placebo-controlled phase 3 trial. *Lancet Oncol*. 2014 Jul;15(8):799-808.
9. Sugiyama T, Fujiwara K, Ohashi Y, Yokota H, Hatae M, Ohno T, Nagai Y, Mitsuhashi N, Ochiai K, Noda K Phase III placebo-controlled double-blind randomized trial of radiotherapy for stage IIB-IVA cervical cancer with or without immunomodulator Z-100: a JGOG study. *Ann Oncol*. 2014 May;25(5):1011-7.
10. Nagao S, Nishio S, Michimae H, Tanabe H, Okada S, Otsuki T, Tanioka M, Fujiwara K, Suzuki M, Kigawa J. Applicability of the concept of "platinum sensitivity" to recurrent endometrial cancer: the SGSG-012/GOTIC-004/Intergroup study. *Gynecol Oncol*. 2013 Dec;131(3):567-73.
11. Fujiwara K, Yoshida H, Hasegawa K. Update on nonserous ovarian cancer trials. *Ann Oncol*. 2013 Dec;24 Suppl 10:x46-x47.
12. Takano M, Ochi H, Takei Y, Miyamoto M, Hasumi Y, Kaneta Y, Nakamura K, Kurosaki A, Satoh T, Fujiwara H, Nagao S, Furuya K, Yokota H, Ito K, Minegishi T, Yoshikawa H, Fujiwara K, Suzuki M. Surgery for endometrial cancers with suspected cervical involvement: is radical hysterectomy needed (a GOTIC study)? *Br J Cancer*. 2013 Oct 1;109(7):1760-5
13. Fujiwara K, Nagao S, Aotani E, Hasegawa K. Principle and evolving role of intraperitoneal chemotherapy in ovarian cancer. *Expert Opin Pharmacother*.

2013 Sep;14(13):1797-806.

14. Fujiwara K, Kurosaki A, Hasegawa K Clinical trials of neoadjuvant chemotherapy for ovarian cancer: what do we gain after an EORTC trial and after two additional ongoing trials are completed? *Curr Oncol Rep.* 2013 Jun;15(3):197-200.
15. Wright JD, Barrena Medel NI, Sehoul J, Fujiwara K, Herzog TJ. Contemporary management of endometrial cancer. *Lancet.* 2012 Apr 7;379(9823):1352-60

H . 知的財産権の出願・登録状況

- 1 . 特許取得 なし
- 2 . 実用新案登録 なし
- 3 . その他 なし

(研究分担者 : 紀川純三)

1. Kaku H, Kumagai S, Onoue H, Takada A, Shoji T, Miura F, Yoshizaki A, Sato S, Kigawa J, Arai T, Tsunoda S, Tominaga E, Aoki D, Sugiyama T : Objective evaluation of the alleviating effects of Goshajinkigan on peripheral neuropathy induced by paclitaxel/carboplatin therapy: A multicenter collaborative study *Experimental and Therapeutic Medicine.*3:60-5.2012.
2. Bartholomeusz C, Oishi T, Saso H, Akar U, Liu P, Kondo K, Kazansky

A, Krishnamurthy S, Lee J, Esteva FJ, Kigawa J, Ueno NT : MEK1/2 Inhibitor Selumetinib (AZD6244) Inhibits Growth of Ovarian Clear Cell Carcinoma in a PEA-15-Dependent Manner in a Mouse Xenograft Model. *Mol Cancer Ther.*11:360-9.2012.

3. Yoshihara K, Tsunoda T, Shigemizu D, Fujiwara H, Hatae M, Fujiwara H, Masuzaki H, Katabuchi H, Kawakami Y, Okamoto A, Nogawa T, Matsumura N, Udagawa Y, Saito T, Itamochi H, Takano M, Miyagi E, Sudo T, Ushijima K, Iwase H, Seki H, Terao Y, Enomoto T, Mikami M, Akazawa K, Tsuda H, Moriya T, Tajima A, Inoue I, Tanaka K; Japanese Serous Ovarian Cancer Study Group : High-risk ovarian cancer based on 126-gene expression signature is uniquely characterized by downregulation of antigen presentation pathway. *Clin Cancer Res.*18:1374-85.2012.
4. Sato S, Fujiwara H, Oishi T, Shimada M, Machida S, Takei Y, Itamochi H, Suzuki M, Kigawa J : Evaluation of a formula for individual dosage of nedaplatin based on renal function. *Cancer Chemother Pharmacol.* 69:599-603.2012
5. Yamamoto S, Tsuda H, Shimazaki H, Takano M, Yoshikawa T, Kuzuya K, Tsuda H, Kurachi H, Kigawa J,

- Kikuchi Y, Sugiyama T, Matsubara O : Histological Grading of Ovarian Clear Cell Adenocarcinoma: Proposal for a Simple and Reproducible Grouping System Based on Tumor Growth Architecture. *Int J Gynecol Pathol*.31:116-124.2012.
6. Minagawa Y, Shimada M, Itamochi H, Sato S, Sato S, Okada M, Kitada F, Kigawa J. : Feasibility Study on Biweekly Paclitaxel Treatment as Maintenance Chemotherapy in Advanced Müllerian Carcinoma. *Gynecol Obstet Invest*.2012.
 7. Shimada M, Fujiwara H, Sato S, Oishi T, Itamochi H, Machida S, Takei Y, Harada T, Suzuki M, Kigawa J : Area under the curve calculation of nedaplatin dose used in combination chemotherapy with irinotecan in a phase I study of gynecologic malignancies. *Cancer Chemother Pharmacol*. 70: 33-38.2012.
 8. Nonaka M, Itamochi H, Kawaguchi W, Kudoh A, Sato S, Uegaki K, Naniwa J, Sato S, Shimada M, Oishi T, Terakawa N, Kigawa J : Activation of the mitogen-activated protein kinase kinase/extracellular signal-regulated kinase pathway overcomes cisplatin resistance in ovarian carcinoma cells. *Int J Gynecol Cancer*. 22: 922-929.2012.
 9. Asano S, Kitatani K, Taniguchi M, Hashimoto M, Zama K, Mitsutake S, Igarashi Y, Takeya H, Kigawa J, Hayashi A, Umehara H, Okazaki T : Regulation of cell migration by sphingomyelin synthases: sphingomyelin in lipid rafts decreases responsiveness to signaling by the CXCL12/CXCR4 pathway. *Mol Cell Biol*. 32: 3242-3252.2012.
 10. Kigawa J : Molecular-targeted therapies for ovarian cancer. *Int J Clin Oncol*. 17:423.2012.
 11. Itamochi H, Kigawa J : Clinical trials and future potential of targeted therapy for ovarian cancer. *Int J Clin Oncol*. 17:430-40.2012.
 12. Taniguchi M, Kitatani K, Kondo T, Hashimoto-Nishimura M, Asano S, Hayashi A, Mitsutake S, Igarashi Y, Umehara H, Takeya H, Kigawa J, Okazaki T : Regulation of autophagy and its associated cell death by sphingolipid rheostat: reciprocal role of ceramide and sphingosine-1-phosphate in the mTOR pathway. *J Biol Chem*. 287:39898-9100.2012.
 13. Oshita T, Itamochi H, Nishimura R, Numa F, Takehara K, Hiura M, Tanimoto H, Noma J, Hayase R, Murakami A, Fujimoto H, Kanamori Y, Kitada F, Shitsukawa K, Nagaji M, Minagawa Y, Fujiwara M, Kigawa J : Clinical impact of systematic pelvic and para-aortic

lymphadenectomy for pT1 and pT2 ovarian cancer: a retrospective survey by the Sankai Gynecology Study Group. *Int J Clin Oncol.* in press.

14. Itamochi H, Kato M, Nishimura M, Oishi T, Shimada M, Sato S, Naniwa J, Sato S, Nonaka M, Kudoh A, Terakawa N, Kigawa J, Harada T. : Establishment and characterization of a novel ovarian serous adenocarcinoma cell line, TU-OS-4, that overexpresses EGFR and HER2. *Hum Cell.* 25:111-5.2012.

(研究分担者 : 板持広明)

1. Deura I, Shimada M, Hirashita K, Sugimura M, Sato S, Sato S, Oishi T, Itamochi H, Harada T, Kigawa J: Incidence and risk factors for lower limb lymphedema after gynecologic cancer surgery with initiation of periodic complex decongestive physiotherapy. *Int J Clin Oncol.* in press.
2. Naniwa J, Itamochi H, Horie Y, Kudoh A, Sato S, Sato S, Shimada M, Oishi T, Kigawa J, Harada T: Recurrent spontaneous pneumothorax following chemotherapy in a patient with ovarian granulosa cell tumor: a case report. *Int Canc Conf J.* in press.
3. Sato S, Itamochi H: DNA repair and chemotherapy. INTECH, Rijeka. in

press.

4. Okamoto A, Glasspool RM, Mabuchi S, Matsumura N, Nomura H, Itamochi H, Takano M, Takano T, Susumu N, Aoki D, Konishi I, Covens A, Ledermann J, Mezzanica D, Steer C, Millan D, McNeish IA, Pfisterer J, Kang S, Gladieff L, Bryce J, Oza A: Gynecologic Cancer InterGroup (GCIg) consensus review for clear cell carcinoma of the ovary. *Int J Gynecol Cancer.* 24: S20-S25, 2014.
5. Miyata K, Yotsumoto F, Nam SO, Odawara T, Manabe S, Ishikawa T, Itamochi H, Kigawa J, Takada S, Asahara H, Kuroki M, Miyamoto S: Contribution of transcription factor, SP1, to the promotion of HB-EGF expression in defense mechanism against the treatment of irinotecan in ovarian clear cell carcinoma. *Cancer Med.* 3: 1159-1169, 2014.
6. Sato S, Itamochi H: Neoadjuvant chemotherapy in advanced ovarian cancer: latest results and place in therapy. *Ther Adv Med Oncol.* 6: 293-304, 2014.
7. Takeshima N, Matoda M, Abe M, Hirashima Y, Kai K, Nasu K, Takano M, Furuya K, Sato S, Itamochi H, Tsubamoto H, Hasegawa K, Terao K, Otsuki T, Kuritani K, Ito K: Efficacy and safety of triple therapy with apreptant, palonosetron, and

- dexamethasone for preventing nausea and vomiting induced by cisplatin-based chemotherapy for gynecological cancer: KCOG-G1003 phase II trial. *Support Care Cancer*. 22: 2891-2898, 2014.
8. Oishi T, Itamochi H, Kudoh A, Nonaka M, Kato M, Nishimura M, Oumi N, Sato S, Naniwa J, Sato S, Shimada M, Kigawa J, Harada T: The PI3K/mTOR dual inhibitor NVP-BEZ235 reduces the growth of ovarian clear cell carcinoma. *Oncol Rep*. 32: 553-558, 2014.
 9. Uegaki K, Shimada M, Sato S, Deura I, Naniwa J, Sato S, Oishi T, Itamochi H, Harada T, Kigawa J: Outcome of stage IB2–IIB patients with bulky uterine cervical cancer who underwent neoadjuvant chemotherapy followed by radical hysterectomy. *Int J Clin Oncol*. 19: 348-353, 2014.
 10. Kudoh A, Oishi T, Itamochi H, Sato S, Naniwa J, Sato S, Shimada M, Kigawa J, Harada T: Dual inhibition of phosphatidylinositol 3'-kinase and mammalian target of rapamycin using NVP-BEZ235 as a novel therapeutic approach for mucinous adenocarcinoma of the ovary. *Int J Gynecol Cancer*. 24: 444-453, 2014.
 11. Itamochi H, Nishimura M, Oumi N, Kato M, Oishi T, Shimada M, Sato S, Naniwa J, Sato S, Kudoh A, Kigawa J, Harada T: Checkpoint kinase inhibitor AZD7762 overcomes cisplatin resistance in clear cell carcinoma of the ovary. *Int J Gynecol Cancer*. 24: 61-69, 2014.
 12. Tuna M, Itamochi H: Insulin-like growth factor I regulates the expression of isoforms of Wilms' tumor 1 gene in breast cancer. *Tumori*. 99: 715-722, 2013.
 13. Taniguchi F, Itamochi H, Harada T, Terakawa N: Fibroblast growth factor receptor 2 expression may be involved in transformation of ovarian endometrioma to clear cell carcinoma of the ovary. *Int J Gynecol Cancer* 23: 791-796, 2013
 14. Itamochi H, Kato M, Nishimura M, Oumi N, Oishi T, Shimada M, Sato S, Naniwa J, Sato S, Nonaka M, Kudoh A, Terakawa N, Kigawa J, Harada T: Establishment and characterization of a novel ovarian clear cell adenocarcinoma cell line, TU-OC-1, with a mutation in the PIK3CA gene. *Hum Cell* 26: 121-127, 2013
 15. Yang JY, Yoshihara K, Tanaka K, Hatae M, Masuzaki H, Itamochi H, Takano M, Ushijima K, Tanyi JL, Coukos

- G, Lu Y, Mills GB, Verhaak RG: Predicting time to ovarian carcinoma recurrence using protein markers. *J Clin Invest* 123: 3740-3750, 2013
16. Shimada M, Itamochi H, Kigawa J: Nedaplatin: a cisplatin derivative in cancer chemotherapy. *Cancer Manage Res* 2013: 67-76, 2013
 17. Naniwa J, Itamochi H, Kigawa J: Implication of Clear Cell and Mucinous Histology. In: *Ovarian Cancer - A Clinical and Translational Update*, Díaz-Padilla I ed., INTECH, Rijeka, pp. 97-116, 2013
 18. Itamochi H, Kigawa J: Clinical trials and future potential of targeted therapy for ovarian cancer. *Int J Clin Oncol* 17: 430-440, 2012 (査読あり)
 19. Sato S, Fujiwara H, Oishi T, Shimada M, Machida S, Takei Y, Itamochi H, Suzuki M, Kigawa J: Evaluation of a formula for individual dosage of nedaplatin based on renal function. *Cancer Chemother Pharmacol* 69: 599-603, 2012
 20. Yoshihara K, Tsunoda T, Shigemizu D, Fujiwara H, Hatae M, Fujiwara H, Masuzaki H, Katabuchi H, Kawakami Y, Okamoto A, Nogawa T, Matsumura N, Udagawa Y, Saito T, Itamochi H, Takano M, Miyagi E, Sudo T, Ushijima K, Iwase H, Seki H, Terao Y, Enomoto T, Mikami M, Akazawa K, Tsuda H, Moriya T, Tajima A, Inoue I, Tanaka K: for The Japanese Serous Ovarian Cancer Study Group: High-Risk Ovarian Cancer Based on 126-Gene Expression Signature Is Uniquely Characterized by Downregulation of Antigen Presentation Pathway. *Clin Cancer Res* 18: 1374-1385, 2012
 21. Minagawa Y, Shimada M, Itamochi H, Sato S, Sato S, Okada M, Kitada F, Kigawa J: Feasibility study on biweekly Paclitaxel treatment as maintenance chemotherapy in advanced müllerian carcinoma. *Gynecol Obstet Invest.* 73: 272-276, 2012
 22. Shimada M, Fujiwara H, Sato S, Oishi T, Itamochi H, Machida S, Takei Y, Harada T, Suzuki M, Kigawa J: Area under the curve calculation of nedaplatin dose used in combination chemotherapy with irinotecan in a phase I study of gynecologic malignancies. *Cancer Chemother Pharmacol* 70: 33-38, 2012
 23. Nonaka M, Itamochi H,

- Kawaguchi W, Kudoh A, Sato S, Uegaki K, Naniwa J, Sato S, Shimada M, Oishi T, Terakawa N, Kigawa J, Harada T: Activation of the Mitogen-Activated Protein Kinase Kinase/Extracellular Signal-Regulated Kinase Pathway Overcomes Cisplatin Resistance in Ovarian Carcinoma Cells. *Int J Gynecol Cancer* 22: 922-929, 2012
24. Itamochi H, Kato M, Nishimura M, Oishi T, Shimada M, Sato S, Naniwa J, Sato S, Nonaka M, Kudoh A, Terakawa N, Kigawa J, Harada T: Establishment and characterization of a novel ovarian serous adenocarcinoma cell line, TU-OS-4, that overexpresses EGFR and HER2. *Hum Cell* 25: 111-115, 2012
25. Sato S, Itamochi H: Bevacizumab and ovarian cancer. *Curr Opin Obstet Gynecol* 24: 8-13, 2012
- (研究分担者：笠松高弘)
1. Eto T, Saito T, Shimokawa M, Hatae M, Takeshima N, Kobayashi H, Kasamatsu T, Yoshikawa H, Kamura T, Konishi I. Status of treatment for the overall population of patients with stage IVb endometrial cancer, and evaluation of the role of preoperative chemotherapy: A retrospective multi-institutional study of 426 patients in Japan. *Gynecol Oncol* 12013.
2. Katsumata N, Yoshikawa H, Kobayashi H, Saito T, Kuzuya K, Nakanishi T, Yasugi T, Yaegashi N, Yokota H, Kodama S, Mizunoe T, Hiura M, Kasamatsu T, Shibata T, Kamura T, Japan Clinical Oncology G. Phase III randomised controlled trial of neoadjuvant chemotherapy plus radical surgery vs radical surgery alone for stages IB2, IIA2, and IIB cervical cancer: a Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG 0102). *Br J Cancer* 12013;108: 1957-63.
3. Matsubara A, Sekine S, Ogawa R, Yoshida M, Kasamatsu T, Tsuda H, Kanai Y. Lobular Endocervical Glandular Hyperplasia Is a Neoplastic Entity With Frequent Activating GNAS Mutations. *Am J Surg Pathol* 12013.
4. Murakami N, Kasamatsu T, Morota M, Sumi M, Inaba K, Ito Y, Itami J. Radiation Therapy for Stage IVA Cervical Cancer. *Anticancer Res* 12013;33: 4989-94.

5. Murakami N, Kasamatsu T, Sumi M, Yoshimura R, Takahashi K, Inaba K, Morota M, Mayahara H, Ito Y, Itami J. Radiation therapy for primary vaginal carcinoma. *J Radiat Res* 2013;54: 931-7.
6. Koga Y, Katayose S, Onda N, Kasamatsu T, Kato T, Ikeda S, Ishikawa M, Ishitani K, Hirai Y, Matsui H. Usefulness of Immuno-Magnetic Beads Conjugated with Anti-EpCAM Antibody for Detecting Endometrial Cancer Cells. *Journal of Cancer Therapy* 4:1273-82, 2013.
7. Uehara T, Onda T, Togami S, Amano T, Tanikawa M, Sawada M, Ikeda S, Kato T, Kasamatsu T. Prognostic impact of the history of breast cancer and of hormone therapy in uterine carcinosarcoma. *Int J Gynecol Cancer* 2012;22: 280-5.
8. Togami S, Sasajima Y, Oi T, Ishikawa M, Onda T, Ikeda S, Kato T, Tsuda H, Kasamatsu T. Clinicopathological and prognostic impact of human epidermal growth factor receptor type 2 (HER2) and hormone receptor expression in uterine papillary serous carcinoma. *Cancer Sci* 2012;103: 926-32.
9. Togami S, Kasamatsu T, Sasajima Y, Onda T, Ishikawa M, Ikeda S, Kato T, Tsuda H. Serous adenocarcinoma of the uterine cervix: a clinicopathological study of 12 cases and a review of the literature. *Gynecol Obstet Invest* 2012;73: 26-31.
10. Kuroda Y, Murakami N, Morota M, Sekii S, Takahashi K, Inaba K, Mayahara H, Ito Y, Yoshimura R, Sumi M, Kagami Y, Katsumata N, Kasamatsu T, Itami J. Impact of concurrent chemotherapy on definitive radiotherapy for women with FIGO IIIb cervical cancer. *J Radiat Res* 2012;53: 588-93.
11. Ikeda S, Yoshimura K, Onda T, Kasamatsu T, Kato T, Ishikawa M, Sasajima Y, Tsuda H. Combination of squamous cell carcinoma-antigen, carcinoembryonic antigen, and carbohydrate antigen 19-9 predicts positive pelvic lymph nodes and parametrial involvement in early stage squamous cell carcinoma of the uterine cervix. *J Obstet Gynaecol Res* 2012;38: 1260-5.
12. Eto T, Saito T, Kasamatsu T, Nakanishi T, Yokota H, Satoh T, Nogawa T, Yoshikawa H, Kamura T, Konishi I. Clinicopathological prognostic

factors and the role of cytoreduction in surgical stage IVb endometrial cancer: A retrospective multi-institutional analysis of 248 patients in Japan. *Gynecol Oncol* 2012;127: 338-44.

(研究分担者：石川光也)

1. Togami S, Sasajima Y, Kasamatsu T, Oda-Otomo R, Okada S, Ishikawa M, Ikeda SI, Kato T, Tsuda H. Immunophenotype and Human Papillomavirus Status of Serous Adenocarcinoma of the Uterine Cervix. *Pathol Oncol Res*. Published online: 05 November 2014.

(研究分担者：波多江正紀)

1. Status of treatment for the overall population of patients with stage IVb endometrial cancer, and evaluation of the role of preoperative chemotherapy: A retrospective multi-institutional study of 426 patients in Japan. Eto T, Saito T, Shimokawa M, Hatae M, Takeshima N, Kobayashi H, Kasamatsu T, Yoshikawa H, Kamura T, Konishi I. *Gynecol Oncol*. 2013 Dec;131(3):574-80
2. Predicting time to ovarian carcinoma recurrence using protein markers. Yang JY,

Yoshihara K, Tanaka K, Hatae M, Masuzaki H, Itamochi H; Cancer Genome Atlas (TCGA) Research Network, Takano M, Ushijima K, Tanyi JL, Coukos G, Lu Y, Mills GB, Verhaak RG. *J Clin Invest*. 2013 Sep 3;123(9):3740-50

3. Endocervical glandular neoplasia associated with lobular endocervical glandular hyperplasia is HPV-independent and correlates with carbonic anhydrase-IX expression: a Gynaecological Oncology Group Study. Liao SY, Rodgers WH, Kauderer J, Darcy KM, Carter R, Susumu N, Nagao S, Walker JL, Hatae M, Stanbridge EJ. *Br J Cancer*. 2013 Feb 19;108(3):613-20.
4. High-risk ovarian cancer based on 126-gene expression signature is uniquely characterized by downregulation of antigen presentation pathway. Yoshihara K, Tsunoda T, Shigemizu D, Fujiwara H, Hatae M, Fujiwara H, Masuzaki H, Katabuchi H, Kawakami Y, Okamoto A, Nogawa T, Matsumura N, Udagawa Y, Saito T, Itamochi H, Takano M, Miyagi E, Sudo T,

- Ushijima K, Iwase H, Seki H, Terao Y, Enomoto T, Mikami M,
5. 卵巣癌初回化学療法の変遷 波多江正紀, 中村俊昭, 川畑宜代, 宮島千草, 松本純, 田平達則, 荒木梢, 富永美沙, 山本文子 鹿児島市立病院産婦人科 産科と婦人科 79(6): 701-707, 2012.
 6. 腹腔鏡下に性腺を摘出した精巢性女性化症候群の一例 中村俊昭, 川畑宜代, 山本文子, 波多江正紀 鹿児島市立病院産婦人科 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 28(1): 313-313, 2012.

(研究分担者：道前洋史)

1. Emura T, Konno Y, Michimae H. Statistical Inference Based on the Nonparametric Maximum Likelihood Estimator under Double-truncation. Lifetime Data Analysis, in press.
2. Emura T, Kao F and Michimae H. An improved nonparametric estimator of distribution function for censored bivariate competing risk models. Journal of Multivariate Analysis, 132: 229-241, 2014.
3. Niho S, Suzuki K, Sakai H, Kaburagi T, Koike T, Minato K, Kato T, Okamoto H, Seto T, Hosomi Y, Shimizu K, Oshita F, Kunitoh H, Tsuboi M, Michimae H, Takeuchi M, Watanabe K and Ikeda N. Feasibility trial of adjuvant chemotherapy with docetaxel plus cisplatin followed by

maintenance chemotherapy of S-1 in completely resected non-small cell lung cancer: Thoracic Oncology Research Group Study 0809. British Journal of Cancer, 109(3):545-551, 2013.

4. Katumata N, Yasuda M, Isonishi S, Takahashi F, Michimae H, Kimura E, Aoki D, Jobo T, Komada S, Terauchi F, Tsuda H, Sugiyama T and Ochiai K. Long-term follow-up of a randomized trial comparing conventional paclitaxel and carboplatin with dose-dense weekly paclitaxel and carboplatin in women with advanced epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer: JGOG 3016 trial. The Lancet Oncology, 14(10):1020-1026, 2013.

(研究分担者：落合和徳)

1. 落合和徳. 【婦人科がんの予防戦略と早期診断】 卵巣がん リスク因子を考慮した卵巣がん予防. 臨床婦人科産科 2013;67(8):825-831.
2. 白石絵莉子, 山本瑠伊, 山下修位, 林 千景, 駒崎裕美, 高橋一彰, 堀谷まどか, 永田知映, 上田 和, 斉藤元章, 矢内原 臨, 高倉 聡, 山田恭輔, 落合和徳, 岡本愛光. 卵巣原発ミューラー管性腺肉腫の1例 妊孕性温存手術後の再発. 東京産科婦人科学会会誌;62(1):116-121, 2013
3. 飯田泰志, 田部 宏, 落合和徳 【次

- 世代の婦人科がん治療を展望する】婦人科がんに対する分子標的薬の開発：JGOG 臨床試験．産婦人科の実際；62(3):283-288,2013
4. 落合和徳．化学療法先行治療を進行卵巣がんの標準治療とするための研究 卵巣明細胞腺癌におけるIL-6 シグナルに関する検討 分担研究報告書．厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）(H22-がん臨床-一般-020)平成 24 年度総括研究報告書；37-8,2013
 5. Yamada K, Tanabe H, Imai M, Jobo T, Kudo K, Fujiwara H, Nagata C, Furuya K, Suzuki M, Ochiai K, Tanaka T, Yasuda M. Feasibility study of paclitaxel plus carboplatin in patients with endometrial cancer: a Japan Kanto Tumor Board study (JKTB trial). *J Obstet Gynaecol Res*;39(1):311-6,2013
 6. Ushijima K, Kamura T, Tamura K, Kuzuya K, Sugiyama T, Noda K, Ochiai K. Docetaxel/irinotecan combination chemotherapy in platinum/taxane-refractory and-resistant ovarian cancer:JGOG/WJGOG Intergroup Study. *Int J Clin Oncol.*;18(1):126-31,2013
 7. 岡本愛光，田部 宏，落合和徳，田中忠夫．【卵巣癌治療の変遷と今後の展開】卵巣癌の最近の臨床試験の動向について-GCIG 会議より．産科と婦人科；79(6):767-73,2012
 8. 高倉 聡，落合和徳．【婦人科がん-最新の研究動向】婦人科がん-概論 - 国内共同研究の動向．日本臨；70(増刊号 4):52-8,2012
 9. 矢内原 臨，落合和徳．【婦人科がん-最新の研究動向】卵巣がん卵巣癌の治療 治療概論．日本臨床；70(増刊号 4):557-9, 2012
 10. 永田知映，落合和徳．【婦人科悪性腫瘍の診断治療アップデート】卵巣がん 妊孕性温存手術．産婦人科の実際；61(3):425-31, 2012
 11. 落合和徳．上皮性卵巣癌における免疫関連遺伝子の発現解析．厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）分担研究報告書；33-5,2012
- （研究分担者：岡本愛光）
1. Hirata Y, Murai N, Yanaihara N, Saito M, Saito M, Urashima M, Murakami Y, Matsufuji S, Okamoto A. MicroRNA-21 is a candidate driver gene for 17q23-25 amplification in ovarian clear cell carcinoma. *BMC Cancer*. 2014 Nov 3;14(1):799. doi: 10.1186/1471-2407-14-799.
 2. Okamoto A, Glasspool RM, Mabuchi S, Matsumura N, Nomura H, Itamochi H, Takano M, Takano T, Susumu N, Aoki D, Konishi I, Covens A, Ledermann J, Mezzazanica D, Steer C, Millan D, McNeish IA, Pfisterer J, Kang S, Gladieff L, Bryce J, Oza A. Gynecologic Cancer InterGroup

- (GCIG) Consensus Review for Clear Cell Carcinoma of the Ovary. *Int J Gynecol Cancer*. 2014 Nov;24(9 Suppl 3):S20-5.
3. Suzuki K, Takakura S, Saito M, Morikawa A, Suzuki J, Takahashi K, Nagata C, Yanaihara N, Tanabe H, Okamoto A. Impact of Surgical Staging in Stage I Clear Cell Adenocarcinoma of the Ovary. *Int J Gynecol Cancer*. 2014 Sep;24(7):1181-9.
 4. Seki T, Yanaihara N, Hirata Y, Fukunaga M, Tanaka T, Okamoto A. Uterine endometrial carcinoma with trophoblastic differentiation: a case report with literature review. *Eur J Gynaecol Oncol*. 2014;35(4):461-4.
 5. Saitou M, Iida Y, Komazaki H, Narui C, Matsuno K, Kawabata A, Ueda K, Tanabe H, Takakura S, Isonishi S, Sasaki H, Okamoto A. Success rate and safety of tumor debulking with diaphragmatic surgery for advanced epithelial ovarian cancer and peritoneal cancer. *Arch Gynecol Obstet*. 2014 Sep 4. [Epub ahead of print]
 6. Kajiwara K, Kimura E, Nakano M, Takano H, Okamoto A. Clinical experience of J-VAC drain for skin closure in the laparotomy of obstetrics and gynecology. *J Obstet Gynaecol Res*. 2014 Apr;40(4):1089-97.
 7. 梶原 一紘(東京慈恵会医科大学産婦人科),和田 誠司,堀谷 まどか,土橋 麻美子,田中 邦治,種元 智洋,大浦 訓章,岡本 愛光. 胎児死亡となった先天性QT延長症候群の1例(原著論文) 日本周産期・新生児医学会雑誌 (1348-964X)49 巻 3 号 Page1115-1120(2013.09)
 8. Shimizu A, Kobayashi N, Shimada K, Oura K, Tanaka T, Okamoto A, Kondo K. Novel gene therapy viral vector using non-oncogenic lymphotropic herpesvirus. *PLoS One*. 2013;8(2):e56027.
 9. Koyama-Nasu R, Takahashi R, Yanagida S, Nasu-Nishimura Y, Oyama M, Kozuka-Hata H, Haruta R, Manabe E, Hoshino-Okubo A, Omi H, Yanaihara N, Okamoto A, Tanaka T, Akiyama T. The Cancer Stem Cell Marker CD133 Interacts with Plakoglobin and Controls Desmoglein-2 Protein Levels. *PLoS One*. 2013;8(1):e53710.
 10. 舟木 哲(東京慈恵会医科大学産婦人科講座),梶原 一紘,大浦 訓章,佐藤 泰輔,野口 幸子,佐藤 陽一,堀谷 まどか,土橋 麻美子,田中 邦治,川口 里恵,種元 智洋,恩田 威一,岡本 愛光. 頸管妊娠に対し子宮動脈塞栓術施行後次回妊娠で分娩後大量出血をきたし再度子宮動脈塞栓術を施行した1例(原著論文/症例報告) 東京産科婦人科学会誌(2186-0599)62 巻 3

- 号 Page450-455(2013.07)
11. 佐藤 安南(国立成育医療研究センター 周産期センター産科),梅原 永能,廣瀬 宗,山村 倫啓,上出 泰山,和田 誠司,渡辺 典芳,塚原 優己,久保 隆彦,北川 道弘,左合 治彦,和田 誠司,岡本 愛光 . 帝王切開癒痕部妊娠において異なる転帰をたどった 2 例(原著論文) 東京産科婦人科学会会誌 (2186-0599)62 巻 2 号 Page309-313(2013.04)
 12. 石橋 由朗(東京慈恵会医科大学 附属病院 手術部),三澤 健之,小村 伸朗,大熊 誠尚,芦塚 修一,尾高 真,杉本 公平,山田 祐紀,柏木 秀幸,森川 利昭,矢永 勝彦,岡本 愛光,額川 晋,森山 寛 .【各科におけるトレーニングシステムの構築】 学内技術認定制度と連携した研修医からの内視鏡外科手術教育(解説/特集) 日本外科系連合学会誌(0385-7883)38 巻 2 号 Page235-242(2013.04)学内技術認定制度
 13. 杉本 公平,関 壽之,鴨下 桂子,飯倉 絵理,堀谷 まどか,上田 和,種元 智洋,斎藤 元章,拝野 貴之,林 博,和田 誠司,大浦 訓章,岡本 愛光 . 医師の行う不妊外来カウンセリングの現状(原著論文) 日本受精着床学会雑誌(0914-6776)30 巻 1 号 Page136-140(2013.03)
 14. Nakashima A, Yamanaka-Tatematsu M, Fujita N, Koizumi K, Shima T, Yoshida T, Nikaido T, Okamoto A, Yoshimori T, Saito S. Impaired autophagy by soluble endoglin, under physiological hypoxia in early pregnant period, is involved in poor placentation in preeclampsia. Autophagy. 2013 Mar 1;9(3):303-16.
 15. Yanagida S, Taniue K, Sugimasa H, Nasu E, Takeda Y, Kobayashi M, Yamamoto T, Okamoto A, Akiyama T. ASBEL, an ANA/BTG3 antisense transcript required for tumorigenicity of ovarian carcinoma. Sci Rep. 2013 Feb 19;3:1305.
 16. 白石 絵莉子,山本 瑠伊,山下 修位,林 千景,駒崎 裕美,高橋 一彰,堀谷 まどか,永田 知映,上田 和,斎藤 元章,矢内原 臨,高倉 聡,山田 恭輔,落合 和徳,岡本 愛光 . 卵巣原発ミューラー管性腺肉腫の 1 例 妊孕性温存手術後の再発(原著論文/症例報告) 東京産科婦人科学会会誌 (2186-0599)62 巻 1 号 Page116-121(2013.01)
 17. 佐藤佳世, 高倉聡, 岡本愛光 .【婦人科がん手術の最前線】卵巣がん 卵巣がんに対する staging laparotomy (解説/特集) 産婦人科の実際(0558-4728)62 巻 1 号 Page59-66(2013.01)
 18. Kunito S, Takakura S, Nagata C, Saito M, Yanaihara N, Yamada K, Okamoto A, Sasaki H, Ochiai K, Tanaka T. Long-term survival in patients with clear cell adenocarcinoma of ovary treated

- with irinotecan hydrochloride plus cisplatin therapy as first-line chemotherapy. J Obstet Gynaecol Res. 2012 Dec;38(12):1367-75.
19. 鴨下 桂子,高野 浩邦,平井 利明,松井 仁志,田沼 有希子,佐藤 佳世,森本 恵爾,江澤 正浩,小曾根 浩一,飯田 泰志,青木 宏明,田部 宏,栗田 正,谷口 洋,佐々木 寛,岡本 愛光 .【卵巢成熟嚢胞性奇形腫】 卵巢成熟嚢胞性奇形腫を合併した抗 NMDAR 抗体陽性脳炎の1例(原著論文/特集) 関東連合産科婦人科学会誌(2186-0610)49 巻 4 号 Page675-678(2012.11)
 20. 佐藤 泰輔,種元 智洋,松岡 知奈,松井 仁志,梶原 一紘,堀谷 まどか,土橋 麻美子,田中 邦治,和田 誠司,大浦 訓章,恩田 威一,岡本 愛光 .羊水過多をきたした胎盤血管腫の2例(原著論文) 東京産科婦人科学会誌(2186-0599)61 巻 3 号 Page408-412(2012.10)
 21. 飯田 泰志(東京慈恵会医科大学産婦人科講座),小田 瑞恵,岡本 愛光 .【産婦人科の薬剤使用プラクティス:病態別処方-婦人科編】 感染症 尖圭コンジローマ(解説/特集) 産婦人科の実際(0558-4728)61 巻 11 号 Page1580-1583(2012.10)
 22. 森川 あすか,高倉 聡,岡本 愛光 .【産婦人科医療の未来の予測】 卵巢がんの発見と治療(解説/特集) 産婦人科の実際(0558-4728)61 巻 10 号 Page1435-1442(2012.10)
 23. 杉本 公平,野口 幸子,鴨下 桂子,伊藤 由紀,横須賀 治子,飯倉 絵理,斎藤 幸代,川口 里恵,上田 和,拝野 貴之,斎藤 元章,林 博,高倉 聡,大浦 訓章,岡本 愛光,田中 忠夫 .拳児希望患者に対する鏡視下手術後転帰についての検討(原著論文) 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌(1884-9938)28 巻 1 号 Page471-475(2012.08)
 24. 平田 幸広(東京慈恵会医科大学産婦人科),矢内原 臨,落合 和徳,岡本 愛光 .【婦人科がんの最新医学】(PART.4)卵巢がんの最新医学 卵巢がんの再発パターン別治療方針(解説/特集) からだの科学(0453-3038)274 号 Page139-142(2012.08)
 25. 坂本 優(佐々木研究所附属杏雲堂病院 婦人科),嘉屋 隆介,三宅 清彦,小屋松 安子,茂木 真,秋谷 司,落合 和徳,栗津 邦男,田中 忠夫,岡本 愛光【産婦人科領域レーザー診療の現状と将来】 子宮頸部初期癌ならびに異形成に対する光線力学療法の現状と展望(総説/特集) 日本レーザー医学会誌(0288-6200)33 巻 2 号 Page117-121(2012.08)
 26. 三宅 清彦(佐々木研究所附属杏雲堂病院 婦人科),嘉屋 隆介,小屋松 安子,茂木 真,秋谷 司,田中 忠夫,坂本 優,岡本 愛光 .【産婦人科領域レーザー診療の現状と将来】 子宮頸部再発病変に対する

- 光線力学療法(PDT)の現状と展望
(総説/特集) 日本レーザー医学会誌 (0288-6200)33 巻 2 号
Page136-140(2012.08)
27. 大浦 訓章(東京慈恵会医科大学産婦人科),塚原 麻帆,松岡 知奈,佐藤 泰輔,梶原 一紘,佐藤 陽一,加藤 淳子,土橋 麻美子,田中 邦治,川口 里恵,種元 智洋,岡本 愛光.【産科外来診療フローチャート-妊婦管理のすべて-】リスク因子の抽出と評価(解説/特集) 産婦人科の実際(0558-4728)61 巻 7 号 Page959-964(2012.07)
28. 岡本愛光,田部宏,落合和徳,田中忠夫.卵巣癌の最近の臨床試験の動向について—GCIG 会議より産科と婦人科 別刷 79 巻 6 号 Page767-773 (2012.06)
29. 寒河江 悟(JR 札幌病院 産婦人科),青木 大輔,進 伸幸,岡本 愛光,青谷 恵利子,竹内 正弘,万代 昌紀.JGOG・GCIG 委員会 .【婦人科がん-最新の研究動向-】婦人科がん 概論 国際共同研究の動向 Gynecologic Cancer Intergroup(GCIG)での議論を中心に (解説 / 特集) 日本臨床 (0047-1852)70 巻増刊 4 婦人科がん Page59-66(2012.06)
30. 矢内原 臨(東京慈恵会医科大学産婦人科),岡本 愛光,落合 和徳,田中 忠夫.【婦人科がん-最新の研究動向-】卵巣がん 卵巣癌の発癌機構 分子機構(解説/特集) 日本臨床(0047-1852)70 巻増刊 4 婦人科がん Page475-479(2012.06)
31. Yanaihara N, Anglesio MS, Ochiai K, Hirata Y, Saito M, Nagata C, Iida Y, Takakura S, Yamada K, Tanaka T, Okamoto A. Cytokine gene expression signature in ovarian clear cell carcinoma. Int J Oncol. 2012 Sep;41(3):1094-100. Epub 2012 Jun 26.
32. Ueda K, Yamada K, Kiyokawa T, Iida Y, Nagata C, Hamada T, Saito M, Aoki K, Yanaihara N, Takakura S, Okamoto A, Ochiai K, Ohkawa K, Tanaka T. Pilot study of CD147 protein expression in epithelial ovarian cancer using monoclonal antibody 12C3. J Obstet Gynaecol Res. 2012 Sep;38(9):1211-9. Epub 2012 May 8.
33. 山口 乃里子,高倉 聡,關 壽之,嘉屋 隆介,永田 知映,国東 志郎,斉藤 元章,矢内原 臨,山田 恭輔,岡本 愛光,落合 和徳,田中 忠夫.術前診断に難渋した後腹膜神経鞘腫の1例(原著論文/症例報告) 東京産科婦人科学会会誌 (2186-0599)61 巻 1 号 Page123-126(2012.04)
34. Iida Y, Aoki K, Asakura T, Ueda K, Yanaihara N, Takakura S, Yamada K, Okamoto A, Tanaka T, Ohkawa K. Hypoxia promotes glycogen synthesis and accumulation in human ovarian clear cell carcinoma. Int J Oncol. 2012 Jun;40(6):2122-30. Epub 2012 Mar 19.

35. Nagata C, Yanagida S, Okamoto A, Morikawa A, Sugimoto K, Jikei Gynecology Staffs, et al. Risk factors of treatment discontinuation due to uterine bleeding in adenomyosis patients treated with dienogest. *J Obstet Gynaecol Res.* 2012 Apr;38(4):639-44. Epub 2012 Mar 13.

(研究分担者：高野忠夫)

1. Okamoto A, Glasspool RM, Mabuchi S, Matsumura N, Nomura H, tamochi H, Takano M, Takano T, Susumu N, Aoki D, Konishi I, Covens A, Ledermann J, Mezzazanica D, Steer C, Millan D, McNeish IA, Pfisterer J, Kang S, Gladieff L, Bryce J, Oza A. Gynecologic Cancer InterGroup (GCIg) Consensus Review for Clear Cell Carcinoma of the Ovary. *Int J Gynecol Cancer.* 2014 Nov;24(9 Suppl 3):S20-5. doi: 10.1097/IGC.0000000000000289. PMID: 25341576 [PubMed - in process]
2. Tokunaga H, Watanabe Y, Niikura H, Nagase S, Toyoshima M, Shiro R, Yokoyama Y, Mizunuma H, Ohta T, Nishiyama H, Watanabe T, Sato N, Sugiyama T, Takano T, Takahashi F, Yaegashi N. Outcomes of abdominal radical trachelectomy: results of a multicenter prospective cohort study in a Tohoku Gynecologic Cancer Unit. *Int J Clin Oncol.* 2014 Nov 14. [Epub ahead of print]
3. Matsumoto K, Katsumata N, Shibata T, Satoh T, Saitou M, Yunokawa M, Takano T, Nakamura K, Kamura T, Konishi I. Phase II trial of oral etoposide plus intravenous irinotecan in patients with platinum-resistant and taxane-pretreated ovarian cancer (JCOG0503). *Gynecol Oncol.* 2014 Oct 31. pii: S0090-8258(14)01410-3. doi: 10.1016/j.ygyno.2014.10.026.
4. Otsuki A, Otsuki T, Tokunaga H, Niikura H, Nagase S, Sugiyama T, Toyoshima M, Utsunomiya H, Yokoyama Y, Mizunuma H, Sato N, Terada Y, Shoji T, Sugiyama T, Nakahara K, Ohta T, Yamada H, Tase T, Nishiyama H, Fujimori K, Takano T, Takahashi F, Watanabe Y, Yaegashi N., Evaluation of postoperative chemotherapy in patients with uterine carcinosarcoma: a retrospective survey of the Tohoku Gynecologic Cancer Unit. *Int J Clin Oncol.* 2014 Jul 18.
5. Matsuo K, Cahoon SS, Gualtieri M, Scannell CA, Jung CE, Takano T, Paulson RJ, Muderspach LI, Roman LD. Significance of Adenomyosis on Tumor Progression and Survival Outcome of Endometrial Cancer. *Ann Surg Oncol.* 2014 Jul 8.
6. Shoji T, Takatori E, Kaido Y, Omi H,

- Yokoyama Y, Mizunuma H, Kaiho M, Otsuki T, Takano T, Yaegashi N, Nishiyama H, Fujimori K, Sugiyama T. A phase I study of irinotecan and pegylated liposomal doxorubicin in recurrent ovarian cancer (Tohoku Gynecologic Cancer Unit 104 study). *Cancer Chemother Pharmacol*. 2014 Mar 1.
7. Takano T, Otsuki T, Tokunaga H, Toyoshima M, Utsunomiya H, Nagase S, Niikura H, Ito K, Yaegashi N, Yamada H, Tase T, Kagabu M, Shoji T, Sugiyama T, Sato N, Fujimoto T, Terada Y, Nakahara K, Kurachi H, Yokoyama Y, Mizunuma H, Soeda S, Nishiyama H, Matsumoto T, Sato S, Shimada M, Kigawa J. Paclitaxel-carboplatin for advanced or recurrent carcinosarcoma of the uterus: the Japan Uterine Sarcoma Group and Tohoku Gynecologic Cancer Unit Study. *Int J Clin Oncol*. 2014 Jan 7.
 8. Yokoyama Y, Futagami M, Watanabe J, Sato N, Terada Y, Miura F, Sugiyama T, Takano T, Yaegashi N, Kojimahara T, Kurachi H, Nishiyama H, Fujimori K, Tase T, Mizunuma H. Redistribution of resistance and sensitivity to platinum during the observation period following treatment of epithelial ovarian cancer. *Mol Clin Oncol*. 2014 Mar;2(2):212-218. Epub 2013 Dec 10.
 9. Suzuki F, Nagase S, Suzuki K, Oba E, Hiroki E, Matsuda Y, Akahira J, Nishigori H, Sugiyama T, Otsuki T, Yoshinaga K, Takano T, Niikura H, Ito K, Sasano H, Yaegashi N. Decreased expression of 14-3-3 σ is predictive of poor prognosis for patients with human uterine papillary serous carcinoma. *Tohoku J Exp Med*. 2013;231(3):193-9.
 10. Niikura H, Kaiho-Sakuma M, Tokunaga H, Toyoshima M, Utsunomiya H, Nagase S, Takano T, Watanabe M, Ito K, Yaegashi N. Tracer injection sites and combinations for sentinel lymph node detection in patients with endometrial cancer. *Gynecol Oncol*. 2013 Nov;131(2):299-303.
 11. Takano T, Niikura H, Ito K, Nagase S, Utsunomiya H, Otsuki T, Toyoshima M, Tokunaga H, Kaiho-Sakuma M, Shiga N, Nagai T, Tanaka S, Otsuki A, Kurosawa H, Shigeta S, Tsuji K, Yamaguchi T, Yaegashi N. Feasibility study of gemcitabine plus docetaxel in advanced or recurrent uterine leiomyosarcoma and undifferentiated endometrial sarcoma in Japan. *Int J Clin Oncol*. 2013 Oct 24.
 12. Kojimahara T, Nakahara K, Takano T, Yaegashi N, Nishiyama H, Fujimori K, Sato N, Terada Y, Tase

- T, Yokoyama Y, Mizunuma H, Shoji T, Sugiyama T, Kurachi H. Yolk sac tumor of the ovary: a retrospective multicenter study of 33 Japanese women by Tohoku Gynecologic Cancer Unit (TGCU). *Tohoku J Exp Med.* 2013;230(4):211-7.
13. Shoji T, Kumagai S, Yoshizaki A, Yokoyama Y, Fujimoto T, Takano T, Yaegashi N, Nakahara K, Nishiyama H, Sugiyama T.: Efficacy of neoadjuvant chemotherapy followed by radical hysterectomy in locally advanced non-squamous carcinoma of the uterine cervix: a retrospective multicenter study of Tohoku Gynecologic Cancer Unit. *Eur J Gynaecol Oncol.* 2012;33(4):353-7.
14. Nagai T, Niikura H, Kurosawa H, Tanaka S, Otsuki T, Utsunomiya H, Nagase S, Takano T, Ito K, Kaiho Y, Nakagawa H, Arai Y, Yaegashi N.: Individualized radical hysterectomy procedure using intraoperative electrical stimulation for patients with cervical cancer. *Int J Gynecol Cancer.* 2012 Nov;22(9):1591-6.
15. Niikura H, Okamoto S, Otsuki T, Yoshinaga K, Utsunomiya H, Nagase S, Takano T, Ito K, Watanabe M, Yaegashi N.: Prospective study of sentinel lymph node biopsy without further pelvic lymphadenectomy in patients with sentinel lymph node-negative cervical cancer. *Int J Gynecol Cancer.* 2012 Sep;22(7):1244-50.
- (研究分担者：杉山 徹)
1. Hideki Tokunaga, Yoh Watanabe, Hitoshi Niikura, Satoru Nagase, Masafumi Toyoshima, Reiji Shiro, Yoshihito Yokoyama, Hideki Mizunuma, Tsuyoshi Ohta, Hiroshi Nishiyama, Takafumi Watanabe, Naoto Sato, Toru Sugiyama, Tadao Takano, Fumiaki Takahashi, Nobuo Yaegashi. Outcomes of abdominal radical trachelectomy: results of a multicenter prospective cohort study in a Tohoku Gynecologic Cancer Unit. *International Journal of Clinical Oncology.* Published online.12/2014;
2. Rie Oyama, Chizuko Isurugi, Shino Tanaka, Tomoyuki Fukagawa, Ikue Nakayama, Yuri Sasaki, Tomonobu Kanasugi, Aikihiko Kikuchi, Toru Sugiyama The new approach to diagnosis and evaluate of placenta accrete using 3D slicer. *Placenta.*2014; 35(10):A10–A11
3. Ai Otsuki, Takeo Otsuki, Hideki Tokunaga, Hitoshi Niikura, Satoru Nagase, Takashi Sugiyama, Masafumi Toyoshima, Hiroki Utsunomiya, Yoshihito Yokoyama, Hideki Mizunuma, , Kenji Nakahara, Tsuyoshi Ohta, Hidekazu

- Yamada, Toru Tase, Hiroshi
Nishiyama, Keiya Fujimori, Tadao
Takano, Fumiaki Takahashi, Yoh
Watanabe, Nobuo Yaegashi.
Evaluation of postoperative
chemotherapy in patients with
uterine carcinosarcoma: a
retrospective survey of the Tohoku
Gynecologic Cancer Unit. Published
online.7/2014
4. Tadahiro Shoji, Eriko Takatori, Yuki
Miura, Anna Takada, Hideo
Omi, Masahiro Kagabu, Tatsuya
Honda, Fumiharu Miura, Satoshi
Takeuchi, Toru Sugiyama Pilot
Study of Intraperitoneal
Administration of Triamcinolone
Acetonide for Cancerous Ascites in
Patients With End-Stage
Gynecological Cancer. *International
Journal of Gynecological Cancer*.
2014; 24(6):1093-1097.
 5. Tadahiro Shoji, Eriko
Takatori, Yoshitaka Kaido, Hideo
Omi, Yoshihito Yokoyama, Hideki
Mizunuma, Michiko Kaiho, Takeo
Otsuki, Tadao Takano, Nobuo
Yaegashi, Hiroshi Nishiyama, Keiya
Fujimori, Toru Sugiyama. A phase I
study of irinotecan and pegylated
liposomal doxorubicin in recurrent
ovarian cancer (Tohoku
Gynecologic Cancer Unit 104
study). *Cancer Chemotherapy and
Pharmacology* .
2014;73(5):895-901.
 6. Eriko Takatori, Tadahiro Shoji, Yuki
Miura, Satoshi Takeuchi, Akira
Yoshizaki, Toru Sugiyama.
Recurrent cervical cancer in a
patient who was compound
heterozygous for UGT1A1*6 and
UGT1A1*28 presenting with
serious adverse events during
irinotecan hydrochloride/nedaplatin
therapy. *The journal of obstetrics
and gynaecology
research*.39(8)1354-1358.2013
 7. Ikue Nakayama, Masahiko
Shibazaki, Akiko Yashima-Abo,
Fumiharu Miura, Toru Sugiyama,
Tomoyuki Masuda, Chihaya
Maesawa. Loss of HOXD10
expression induced by upregulation
of miR-10b accelerates the
migration and invasion activities of
ovarian cancer cells. *International
journal of oncology* . 43 (1)
63-71.2013
 8. Miyuki Terata, Akihiko Kikuchi,
Tomonobu Kanasugi, Rie Oyama,
Akimune Fukushima, Toru
Sugiyama. Prenatal diagnosis of
parasitic conjoined twins with
three-dimensional ultrasound.
Congenital Anomalies .
131-133.2013
 9. Yoshihito Yokoyama, Masayuki
Futagami, Toshio Fujimoto,
Yukihiro Terada, Eriko Takatori,
Toru Sugiyama, Takeo Otsuki,
Nobuo Yaegashi, Takanobu

- Kojimahara, Hirohisa Kurachi, Hiroshi Nishiyama, Keiya Fujimori, Toru Tase, Hideki Mizunuma. Investigation of the clinicopathological features of fallopian tube malignancy. *Oncology Reports*.30.79-84.2013
10. Yasuo Ohashi, Yukari Uemura, Yasuhito Fujisaka, Toru Sugiyama, Hironobu Ohmatsu, Noriyuki Katsumata, Rumiko Okamoto, Nagahiro Saijo, Tomomitsu Hotta Meta-analysis of epoetin beta and darbepoetin alfa treatment for chemotherapy-induced anemia and mortality: Individual patient data from Japanese randomized, placebo-controlled trials. *Cancer Science*.;104(4):481-485.2013
 11. Noriyuki Katsumata, Makoto Yasuda, Seiji Isonishi, Fumiaki Takahashi, Hirofumi Michimae, Eizo Kimura, Daisuke Aoki, Toshiko Jobo, Shoji Kodama, Fumitoshi Terauchi, Toru Sugiyama, Kazunori Ochiai, Long-term results of dose-dense paclitaxel and carboplatin versus conventional paclitaxel and carboplatin for treatment of advanced epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer (JGOG 3016): a randomised, controlled, open-label trial. *The Lancet Oncology* Vol. 14(10) 1020-1026.2013
 12. Kimio Ushijima, Toshiharu Kamura, Kazuo Tamura, Kazuo Kuzuya, Toru Sugiyama, Kiichiro Noda, Kazunori Ochiai. Docetaxel/irinotecan combination chemotherapy in platinum/taxane-refractory and -resistant ovarian cancer: JGOG/WJGOG Intergroup Study. *International Journal of Clinical Oncology*. 18 (1) 126-131 .2013
 13. Eriko Takatori, Tadahiro Shoji, Takashi Sawai, Akira Kurose, Toru Sugiyama. Analysis of the antitumor activity of gemcitabine and carboplatin against ovarian clear-cell carcinoma using the DNA damage marker γ H2AX. *OncoTargets and Therapy*; 6:901-7. 2013
 14. Tomonobu Kanasugi, Akihiko Kikuchi, Atsushi Matsumoto, Miyuki Terata, Chizuko Isurugi, Rie Oyama, Akimune Fukushima, Toru Sugiyama. Monochorionic twin fetus with VACTERL association after intracytoplasmic sperm injection. *Congenital Anomalies*; 53(2):95-7.2013
 15. Rie Oyama, Marianna Jakab, Miuki Terata, Chizuko Isurugi, Yoshitaka Kaido, Tomonobu Kanasugi, Akihiko Kikuchi, Toru Sugiyama, Ron Kikinis, Sonia Pujol. Towards improved ultrasound-based analysis and 3D

- visualization of the fetal brain using 3D Slicer. *Ultrasound in Obstetrics and Gynecology*.04/2013;
16. Yoshihito Yokoyama, Masayuki Futagami, Toshio Fujimoto, Yukihiro Terada, Eriko Takatori, Toru Sugiyama, Takeo Otsuki, Nobuo Yaegashi, Takanobu Kojimahara, Hirohisa Kurachi, Hiroshi Nishiyama, Keiya Fujimori, Toru Tase, Hideki Mizunuma. Investigation of the clinicopathological features of fallopian tube malignancy. *Oncology Reports* 04/2013;
 17. Eriko Takatori, Tadahiro Shoji, Yasuko Suga, Hanae Niinuma, Yuki Miura, Yoshitaka Kaido, Anna Takada, Masahiro Kagabu, Satoshi Takeuchi, Toru Sugiyama .A pilot study of oxaliplatin with oral S-1 as second-line chemotherapy for patients with recurrent adenocarcinoma of the uterine cervix. *International Journal of Clinical Oncology*.03/2013;
 18. Miyuki Terata, Akihiko Kikuchi, Tomonobu Kanasugi, Rie Oyama, Akimune Fukushima, Toru Sugiyama. Prenatal diagnosis of parasitic conjoined twins with three-dimensional ultrasound. *Congenital Anomalies* 09/2013;:131-3.2013
 19. Tadahiro Shoji, Eriko Takatori, Tatsunori Saito, Hideo Omi, Masahiro Kagabu, Fumiharu Miura, Satoshi Takeuchi, Toru Sugiyama. Neoadjuvant chemotherapy using platinum- and taxane-based regimens for bulky stage Ib2 to IIB non-squamous cell carcinoma of the uterine cervix. *Cancer Chemotherapy and Pharmacology*:12/ 2012
 20. Toru Sugiyama. Second-Line Chemotherapy for Platinum- and Taxane-Resistant Epithelial Ovarian Cancer: Pegylated Liposomal Doxorubicin (PLD), Irinotecan, and Combination Therapies at Lower Doses . 02/2012
 21. Eriko Takatori, Tadahiro Shoji, Jiyu Miura, Satoshi Takeuchi, Akira Yoshizaki, Toru Sugiyama. Case of peptide-YY-producing strumal carcinoid of the ovary: A case report and review. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*; 38(10):1266-70. 2012
 22. Satoshi Yamaguchi, Ryuichiro Nishimura, Nobuo Yaegashi, Kazushige Kiguchi, Toru Sugiyama, Tsunekazu Kita, Kaneyuki Kubushiro, Katsuji Kokawa, Masamichi Hiura, Katsumi Mizutani, Kaichiro Yamamoto, Ken Takizawa. Phase II study of neoadjuvant chemotherapy with irinotecan hydrochloride and nedaplatin followed by radical hysterectomy for bulky stage Ib2 to

- Iib, cervical squamous cell carcinoma: Japanese Gynecologic Oncology Group study (JGOG 1065). *Oncology Reports*; 28(2):487-93. 2012
23. Masashi Takano, Hiroshi Tsuda, Toru Sugiyama. Clear cell carcinoma of the ovary: is there a role of histology-specific treatment? *Journal of Experimental & Clinical Cancer Research*; 31:53. 2012
 24. Yoshitaka Kaido, Akihiko Kikuchi, Tomonobu Kanasugi, Akimune Fukushima, Toru Sugiyama. Acute abdomen due to ovarian congestion: A fallopian tube accompanied by a paratubal cyst, coiling tightly round the ovary. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research* 06/2012
 25. Akimune Fukushima, Atsushi Matsumoto, Miyuki Terata, Tomonobu Kanasugi, Kenji Nakai. Prenatal diagnosis of fetal arrhythmias and assesment of autonomic nervous system activity by fetal magnetocardiography. *The Open Medical Devices Journal*.4;13-21.2012
 26. Tadahiro Shoji, Seisuke Kumagai, Akira Yoshizaki, Yoshihito Yokoyama, Toshiro Fujimoto, Tadao Takano, Npbuo Yaegashi, Kenji Nakahara, Hiroshi Nishiyama, Toru Sugiyama. Efficacy of neoadjuvant chemotherapy followed by radical hysterectomy in locally advanced non-squamous carcinoma of the uterine cervix: a retrospective multicenter study of Tohoku Gynecologic Cancer Unit. *European journal of gynaecological oncology* . 33(4):353-7. 2012
 27. Murai M, Takatori E, Omi H, Isurugi C, Honda T, Kumagai S, Shoji T, Oyama R, Yoshisaki . A, Sugiyama T . Anti-Müllerian hormone and 3D-power Doppler histogram: markers of ovarian function with in vitro fertilization treatment *Reproductive Medicine and Biology*; 9(3):151-161,2012
 28. Kaku H, Kumagai S, Onoue H, Takada A, Shoji T, Miura F, Yoshizaki A, Sato S, Kigawa J, Arai T, Tsunoda S, Tominaga E, Aoki D, Sugiyama T . Objective evaluation of the alleviating effects of Goshajinkigan on peripheral neuropathy induced by paclitaxel/carboplatin therapy: A multicenter collaborative study. *Experimental and therapeutic medicine*; 3(1):60-65,2012
 29. Yamamoto S, Tsuda H, Shimazaki H, Takano M, Yoshikawa T, Kuzuya K, Tsuda H, Kurach i H, Kigawa H, Kikuchi Y, Sugiyama T, Matsubara O . Histological grading of ovarian clear cell adenocarcinoma: proposal for a simple and reproducible grouping

- system based on tumor growth architecture. . International journal of gynecological pathology: official journal of the International Society of Gynecological Pathologists; 31(2):116-24,2012
30. Shoji T, Takatori E, Oyama R, Kumagai S, Fukushima A, Yoshizaki A, Sugiyama T . Tako-Tsubo Cardiomyopathy Caused Immediately following Cesarean Section Delivery of Triplets: A Case Report. Gynecologic and Obstetric Investigation; 74(1):84-8, 2012
 31. Takano M, Tsuda H, Sugiyama T . Clear cell carcinoma of the ovary: Is there a role of histology-specific treatment? Journal of Experimental & Clinical Cancer Research.; 31:53, 2012
 32. Takatori E, Shoji T, Kumagai S, Sawai T, Kurose A , Sugiyama T . Are platinum agents, paclitaxel and irinotecan effective for clear cell carcinoma of the ovary? DNA damage detected with γ H2AX induced by anticancer agents. Journal of Ovarian Research; 5(1):16,2012
 33. Shibazaki M, Maesawa C, Akasaka K, Kasai S, Yasuhira S, Kanno K, Nakayama I, Sugiyama T, Wakabayashi G, Masuda T, Mori N . Transcriptional and post-transcriptional regulation of β III-tubulin protein expression in relation with cell cycle-dependent regulation of tumor cells. International journal of oncology (Int J Oncol) Vol. 40 (3). 695-702,2012
- (研究分担者：野河孝充)
1. Okadome M, Saito T, Tanaka H, Nogawa T, Furuta R, Watanabe K, Kita T, Yamamoto K, Mikami M, Takizawa K; Japanese Gynecologic Oncology Group (JGOG): Potential impact of combined high- and low-risk human papillomavirus infection on the progression of cervical intraepithelial neoplasia 2. J Obstet Gynaecol Res 2014; 40(2):561-569.
 2. 野河孝充：卵巣がん-標準治療と先進医療 【先進医療】再発卵巣がん・卵管がんに対する化学療法-パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与およびベバシズマブ静脈内投与の併用療法、ならびにベバシズマブ静脈内投与による維持療法 . ライフライン 21 がんの先進医療 2014 年 , 通巻 12 号 , pp37-40 .
 3. 友野勝幸、小島淳美、香川昭博、佐伯健二、大亀真一、白山裕子、寺本典弘、野河孝充：集団検診で発見された子宮頸部“胃型”粘液性腺癌の 1 例 . 日本臨床細胞学会雑誌 2014 年 , 第 53 巻第 2 号 , pp104-108 , 公益社団法人日本臨床細胞学会 .
 4. 竹原和宏、白山裕子、野河孝充： . その他 A . 外陰癌・膣癌 Q 2 リンパ節廓清が必要な症例と必要な範囲について教えてください . 婦人科癌診療 Q&A 一つ上

- を行く診療の実践 2014年, pp.275-279.
5. 野河孝充、竹原和宏、白山裕子：手術用レーザーの使い方 頸部病変のレーザー蒸散法 . OSG NOW No.18 よりよい婦人科手術のための器具の使い方 2014年, pp.92-99 .
 6. 竹原和宏、野河孝充：F.CIN/子宮頸癌 40. 期がんの治療 婦人科診療ハンドブック 2014年, pp.263-266 .
 7. Konishi H, Takehara K, Kojima A, Okame S, Yamamoto Y, Shiroyama Y, Yokoyama T, Nogawa T, Sugawara Y. : Maximum standardized uptake value of fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography is a prognostic factor in ovarian clear cell adenocarcinoma. Int J Gynecol Cancer 2014;24(7):1190-1194.
 8. 小西晴久、竹原和宏、大亀真一、小島淳美、白山裕子、横山 隆、野河孝充：卵巣明細胞腺癌のプラチナ製剤抵抗性再発に CPT-11 + PTX 療法が奏効した 1 例 .癌と化療 2014年, 41 巻 11 号, pp1437-1439.
 9. 小西晴久、竹原和宏、大亀真一、小島淳美、山本弥寿子、白山裕子、横山 隆、野河孝充：卵巣上皮性境界悪性腫瘍の推定に PET/CT は有用か？ 現代産婦人科 2014年, Vol. 63 No.1, pp.9-12.
 10. 小西晴久、竹原和宏、大亀真一、小島淳美、白山裕子、横山 隆、野河孝充：上皮性卵巣癌における FDG-PET/CT の SUVmax について - 組織型別での検討 - .現代産婦人科 2014年, Vol. 63 No.1, 2014, pp.13-16.
 11. 横山 隆、横山貴紀、小西晴久、山本弥寿子、大亀真一、白山裕子、竹原和宏、野河孝充、片岡正明：手術進行期分類を用いた子宮体癌の根治的放射線治療成績 .現代産婦人科 2014年, Vol 63 No.1, 2014, pp.49-52.
 12. 横山貴紀、竹原和宏、山本弥寿子、大亀真一、白山裕子、横山 隆、野河孝充：ホルモン補充療法を契機に、初回治療から 22 年後に再発を認めた低悪性度子宮内膜間質肉腫の 1 例 . 現代産婦人科 2014年, Vol. 63 No.1, pp.89-93.
 13. 西島紀子、梶原 誠、菅原敬文、白山裕子、野河孝充、高畑浩之：強い FDG 集積を示した卵巣成熟嚢胞性奇形腫の 1 例 .臨床放射線 2014年, 59 巻 12 号 pp.1769-1773 .
 14. 野河孝充：21.産婦人科疾患 膣・外陰癌 . 今日の治療指針 2013 年版(volume 55) 2013 ,pp1107-8 , 医学書院, 東京 .
 15. Takayoshi Nogawa, Masamichi Hiura, Hideyuki Tanaka, Toshiaki Sato, Reiko Furuta, Kayako Watanabe, Tsunekazu Kita, Kaichiro Yamamoto, Mikio Mikami, Ken Takizawa(Japan Gynecologic oncology Group):Prospective evaluation of the Amplicor HPV test for predicting progression of cervical intraepithelial neoplasia2. J Obstet Gynaecol Res 39(8):1347-1353, 2013.
 16. 小西晴久、竹原和宏、大亀真一、小島淳美、白山裕子、松元 隆、横山 隆、野河孝充：術前に卵巣癌との鑑別に苦慮した小腸癌の 1

- 例 .現代産婦人科 第 62 卷 第 1 号 2013 , pp123-126 , 中国四国産科婦人科学会 , 岡山 .
17. Yoshihara K, Tsunoda T, Shigemizu D, Fujiwara H, Hatae M, Fujiwara H, Masuzaki H, Katabuchi H, Kawakami Y, Okamoto A, Nogawa T, Matsumura N, Udagawa Y, Saito T, Itamochi H, Takano M, Miyagi E, Sudo T, Ushijima K, Iwase H, Seki H, Terao Y, Enomoto T, Mikami M, Akazawa K, Tsuda H, Moriya T, Tajima A, Inoue I, Tanaka K: High-risk ovarian cancer based on 126-gene expression signature is uniquely characterized by downregulation of antigen presentation pathway. *Clin Cancer Res* 18(5);1374-85, 2012
18. Masamichi Hiura, Takayoshi Nogawa: The Role of Modified Radical Hysterectomy in Endometrial Carcinoma. *HYSTERECTOMY* ;51-74, INTEC, Croatia,2012
19. 野河孝充、日浦昌道 : .外陰・膣がん 外因癌・膣癌の治療 . 婦人科がん—最新の研究動向—日本臨牀 70 卷 増刊号 4;687-691 ,日本臨牀社 ,大阪,2012
20. 大亀真一、野河孝充 : PART.4 卵巣癌の最新医学 早期卵巣がんの治療方針 . からだの科学 No.274; 123-125 , 日本評論社 , 東京,2012
21. 野河孝充 : 婦人科腫瘍登録 - 本邦の婦人科腫瘍登録と頸癌・体癌の取扱い規約改訂について - . 愛媛県産婦人科医会報 第 48 号; 8-9 , 愛媛県産婦人科医会 , 愛媛,2012
- (研究分担者 : 万代昌紀)
1. Long-term survival in metastatic malignant struma ovarii treated with oral chemotherapy: A case report. Ukita M, Nakai H, Kotani Y, Tobiume T, Koike E, Tsuji I, Suzuki A, Mandai M. *Oncol Lett.* 2014 Dec;8(6):2458-2462.
 2. STAT1 drives tumor progression in serous papillary endometrial cancer. Kharma B, Baba T, Matsumura N, Kang HS, Hamanishi J, Murakami R, McConechy MM, Leung S, Yamaguchi K, Hosoe Y, Yoshioka Y, Murphy SK, Mandai M, Hunstman DG, Konishi I. *Cancer Res.* 2014 Nov 15;74(22):6519-30.
 3. Menstrual cyclic change of metastin/GPR54 in endometrium. Baba T, Kang HS, Hosoe Y, Kharma B, Abiko K, Matsumura N, Hamanishi J, Yamaguchi K, Yoshioka Y, Koshiyama M, Mandai M, Murphy SK, Konishi I. *Med Mol Morphol.* 2014 Jun 8.
 4. Epigenetic determinants of ovarian clear cell carcinoma biology. Yamaguchi K, Huang Z, Matsumura

- N, Mandai M, Okamoto T, Baba T, Konishi I, Berchuck A, Murphy SK. *Int J Cancer*. 2014 Aug 1;135(3):585-97.
5. Humoral hypercalcemia caused by uterine corpus carcinosarcoma consisting of squamous cell carcinoma in its epithelial component. Takamatsu S, Matsumura N, Baba T, Mandai M, Mikami Y, Konishi I. *J Obstet Gynaecol Res*. 2014 Jan;40(1):263-7.
 6. Abiko K, Mandai M, Hamanishi J, Yoshioka Y, Matsumura N, Baba T, Yamaguchi K, Murakami R, Yamamoto A, Kharma B, Kosaka K, Konishi I. PD-L1 on Tumor Cells Is Induced in Ascites and Promotes Peritoneal Dissemination of Ovarian Cancer through CTL Dysfunction. *Clin Cancer Res*. 2013 Mar 15;19(6):1363-74.
 7. Suzuki A, Kariya M, Matsumura N, Baba T, Yagi H, Mandai M, Konishi I, Fujii S. Expression of p53 and p21(WAF-1), apoptosis, and proliferation of smooth muscle cells in normal myometrium during the menstrual cycle: implication of DNA damage and repair for leiomyoma development. *Med Mol Morphol*. 2012 Dec;45(4):214-21.
 8. Yamanoi K, Mandai M, Suzuki A, Matsumura N, Baba T, Yoshioka Y, Kosaka K, Konishi I. Synchronous primary corpus and ovarian cancer: High incidence of endometriosis and thrombosis. *Oncol Lett*. 2012 Sep;4(3):375-380.
 9. Ueda Y, Mandai M, Matsumura N, Baba T, Suzuki A, Yoshioka Y, Kosaka K, Konishi I. Adenoid cystic carcinoma of Skene's glands: a rare origin in the female genital tract and the characteristic clinical course. *Int J Gynecol Pathol*. 2012 Nov;31(6):596-600.
 10. Mandai M, Matsumura N, Kosaka K, Yasumoto K, Baba T, Yoshioka Y, Suzuki A, Konishi I. Laparoscopic tubo-ovarian transposition prior to chemoradiation for uterine cervical cancer. *Int J Case Rep Imag*. 2012 3(6):42-45.
 11. Yasumoto K, Suzuki A, Matsumura N, Baba T, Oiwa Y, Miyamoto S, Matsuura M, Obama K, Kido A, Umeoka S, Minamiguchi S, Mikami Y, Yoshioka Y, Kosaka K, Mandai M, Konishi I. Cancer risk and management in a woman with Peutz-Jeghers syndrome. *Int Canc Conf J*. 2012 1:1-14.
 12. Baba T, Su S, Umeoka S, Abiko K, Nakamoto Y, Mandai M, Matsumura N, Konishi I.

Advanced extragonadal yolk sac tumor serially followed up with (18) F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography and computerized tomography and serum alpha-fetoprotein.

J Obstet Gynaecol Res. 2012 Mar;38(3):605-9.

13. Mandai M, Suzuki A, Matsumura N, Baba T, Yamaguchi K, Hamanishi J, Yoshioka Y, Kosaka K, Konishi I
Clinical management of ovarian endometriotic cyst (chocolate cyst)-diagnosis, medical treatment and minimal invasive surgery.

Curr Obstet Gynecol Rep. 2012 1:16-24.

14. Yamamura S, Matsumura N, Mandai M, Huang Z, Oura T, Baba T, Hamanishi J, Yamaguchi K, Kang HS, Okamoto T, Abiko K, Mori S, Murphy SK, Konishi I.

The activated transforming growth factor-beta signaling pathway in peritoneal metastases is a potential therapeutic target in ovarian cancer.

Int J Cancer. 2012 Jan 1;130(1):20-8.

15. Taki M, Baba T, Mandai M, Suzuki A, Mikami Y, Matsumura N, Konishi I
A case of solitary fibrous tumor arising slowly in vulva over 10 years – case report and review.

J Obstet Gynaecol Res. 2012 May;38(5):884-8.

(研究分担者 : 櫻木範明)

1. Dong P, Kaneuchi M, Xiong Y, Cao L, Cai M, Liu X, Guo S, Ju J, Jia N, Konno Y, Watari H, Hosaka M, Sudo S, Sakuragi N.
Identification of KLF17 as a novel epithelial to mesenchymal transition inducer via direct activation of TWIST1 in endometrioid endometrial cancer. Carcinogenesis. 2014;35(4):760-8

2. Ebina Y, Watari H, Kaneuchi M, Takeda M, Hosaka M, Kudo M, Yamada H, Sakuragi N.
Impact of FDG-PET in optimizing patient selection for cytoreductive surgery in recurrent ovarian cancer. Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2014;41:446-51

3. Hanley SJ, Yoshioka E, Ito Y, Konno R, Sasaki Y, Kishi R, Sakuragi N.
An exploratory study of Japanese fathers' knowledge of and attitudes towards HPV and HPV vaccination: does marital status matter? Asian Pac J Cancer Prev. 2014;15(4):1837-43

4. Hassan MK, Watari H, Sultan AS, Salah-eldin A, Ohba Y, Sakuragi N.
Histone deacetylase inhibitors sensitize lung cancer cells to hyperthermia: Involvement of Ku70/SirT-1 in thermo-protection. PLOS One. 2014;9:e94213

5. Konno Y, Dong P, Xiong Y, Suzuki F, Lu J, Cai M, Watari H, Mitamura T, Hosaka M, Hanley SJ, Kudo M,

- Sakuragi N. MicroRNA-101 targets EZH2, MCL-1 and FOS to suppress proliferation, invasion and stem cell-like phenotype of aggressive endometrial cancer cells. *Oncotarget*. 2014;5(15):6049-62
6. Mitamura T, Watari H, Todo Y, Odagiri T, Kato T, Hosaka M, Kobayashi N, Sudo S, Takeda M, Dong P, Kudo M, Sakuragi N. Lymphadenectomy can be omitted for low-risk endometrial cancer based on preoperative assessments. *J Gynecol Oncol*. 2014;25:301-5
 7. Mitamura T, Watari H, Wang L, Kanno H, Hassan MK, Miyazaki M, Katoh Y, Kimura T, Tanino M, Nishihara H, Tanaka S, Sakuragi N. miR-31 is an endometrial cancer oncogene that targets LATS2 and suppresses hippo tumor suppressor pathway. *Mol Cancer*. 2014; 13:97
 8. Odagiri T, Watari H, Kato T, Mitamura T, Hosaka M, Sudo S, Takeda M, Kobayashi N, Dong P, Todo Y, Kudo M, Sakuragi N. Distribution of lymph node metastasis sites in endometrial cancer patients who underwent systematic pelvic and para-aortic lymphadenectomy –A proposal of optimal lymphadenectomy for future clinical trials-. *Ann Surg Oncol*. 2014;21(8):2755-61
 9. Todo Y, Watari H, Kang S, Sakuragi N. Tailoring lymphadenectomy according to the risk of lymph node metastasis in endometrial cancer. *J Obstet Gynecol Res*. 2014;40:317-21
 10. Watari H, Todo Y, Kang S, Odagiri T, Sakuragi N. Proposal of a concept and design investigating the survival effect of lymphadenectomy in endometrial cancer. *J Obstet Gynecol Res*. 2014;40:312-6
 11. Dong P, Kaneuchi M, Konno Y, Watari H, Sudo S, Sakuragi N. Emerging therapeutic biomarkers in endometrial cancer. *Biomed Res Int*. 2013;2013:130362. Epub 2013 Jun 11.
 12. Dong P, Kaneuchi M, Xiong Y, Cao L, Cai M, Liu X, Guo S, Ju J, Jia N, Konno Y, Watari H, Hosaka M, Sudo S, Sakuragi N. Identification of KLF17 as a novel epithelial to mesenchymal transition inducer via direct activation of TWIST1 in endometrioid endometrial cancer. *Carcinogenesis*. 2013 (in press)
 13. Dong P, Kaneuchi M, Watari H, Sudo S, Sakuragi N. MicroRNA106b modulates epithelial-mesenchymal transition by targeting TWIST1 in invasive endometrial cancer cell lines. *Mol Carcinog*. 2013 Sep 3 [Epub ahead of print]
 14. Hosaka M, Fujita H, Hanley SJ, Sasaki T, Shirakawa Y, Abiko M, Kudo M, Kaneuchi M, Watari H, Kikuchi K, Sakuragi N. Incidence risk of cervical intraepithelial neoplasia 3 or more severe lesions is a function of

- human papillomavirus genotypes and severity of cytological and histological abnormalities in adult Japanese women. *Int J Cancer*. 2013;132(2):327-34 [Epub ahead of print]
15. Kang S, Todo Y, Odagiri T, Mitamura T, Watari H, Kim JW, Nam JH, Sakuragi N. A low-risk group for lymph node metastasis is accurately identified by Korean gynecologic oncology group criteria in two Japanese cohorts with endometrial cancer. *Gynecol Oncol*. 2013; 129:33-7
 16. Kato T, Watari H, Takeda M, Hosaka M, Mitamura T, Kobayashi N, Sudo S, Kaneuchi M, Kudo M, Sakuragi N. Multivariate prognostic analysis on the patients with adenocarcinoma of the uterine cervix treated with radical hysterectomy and systematic lymphadenectomy. *J Gynecol Oncol* 2013;24:222-8
 17. Kobayashi N, Abedini M, Sakuragi N, Tsang BK. PRIMA-1 increases cisplatin sensitivity in chemoresistant ovarian cancer cells with p53 mutation: a requirement for Akt down-regulation. *J Ovarian Res*. 2013;6(1):7 [Epub ahead of print]
 18. Michimata R, Watari H, Tomaru U, Sakuragi N, Ishizu A. Human papillomavirus (HPV) 16-positive uterine cervical squamous cell carcinoma with co-infection of HPV34 has lower incidence in lymph node metastasis than that without co-infection of HPV34. *Pathobiol*. 2013;80:259-64
 19. Mitamura T, Watari H, Wang L, Kanno H, Hassan MK, Miyazaki M, Katoh Y, Kimura T, Tanino M, Nishihara H, Tanaka S, Sakuragi N. Downregulation of miRNA-31 induces taxane resistance in ovarian cancer cells through increase of receptor tyrosine kinase MET. *Oncogenesis*. 2013;2:e40
 20. Todo Y, Choi HJ, Kang S, Kim JW, Nam JH, Watari H, Tamakoshi A, Sakuragi N. Clinical significance of tumor volume in endometrial cancer: A Japan-Korea cooperative study. *Gynecol Oncol*. 2013;131:294-8
 21. Todo Y, Sakuragi N. Methodological considerations in the analysis of the therapeutic significance of lymphadenectomy in endometrial cancer. *Taiwan J Obstet Gynecol*. 2013; 52:8-13
 22. Todo Y, Sakuragi N. Systematic lymphadenectomy in endometrial cancer. *J Obstet Gynaecol Res*. 2013;39(2):417-7
Todo Y, Sakuragi N. Randomized controlled trial versus comparative cohort study in verifying the therapeutic role of lymphadenectomy in endometrial cancer. *Int J Clin Oncol*. 2013;18(2):200-6
 23. Todo Y, Watari H, Okamoto K,

- Hareyama H, Minobe S, Kato H, Sakuragi N. Tumor volume successively reflects the state of disease progression in endometrial cancer. *Gynecol Oncol*. 2013;129:472-7
24. Zhai H, Karaayvaz M, Dong P, Sakuragi N, Ju J. Prognostic Significance of miR-194 in Endometrial Cancer. *Biomarker Research*. 2013;1:12-7
25. Dong P, Karaayvaz M, Jia N, Kaneuchi M, Hamada J, Watari H, Sudo S, Ju J, Sakuragi N. Mutant p53 gain-of-function induces epithelial-mesenchymal transition through modulation of the miR-130b-ZEB1 axis. *Oncogene*. doi: 10.1038/onc.2012.334, 2012
26. Todo Y, Suzuki Y, Azuma M, Hatanaka Y, Konno Y, Watari H, Kato H, Matsuno Y, Yamashiro K, Sakuragi N. Ultrastaging of para-aortic lymph nodes in stage IIC1 endometrial cancer: A preliminary report. *Gynecol Oncol*, 2012
- (研究分担者：榎本隆之)
1. Hayano,T., Yokota,Y., Hosomichi,K., Nakaoka,H., Yoshihara,K., Adachi,S., Kashima,K., Tsuda,H., Moriya,T., Tanaka,K., Enomoto,T., Inoue,I., Molecular Characterization of an Intact p53 Pathway Subtype in High-Grade Serous Ovarian Cancer.*PLoS One* 9(12) e114491,2014
2. Yamaguchi,M., Yamagishi,Y., Nishikawa,N., Sekine,M., Serikawa,T. Kashima,K., Enomoto,T., Outcomes and Prognostic Factors for Adenocarcinoma/Adenosquamous Carcinomas Treated with Radical Hysterectomy and Adjuvant Therapy.,*Open J of Obstetrics and Gynecology* 4909-915,2014
3. Tamura,R., Kashima,K., Asatani,M., Nishino,K., Nishikawa,N., Sekine,M., Serikawa,T., and Enomoto,T. Preoperative Ultrasound- Guided Needle Biopsy of 63 Uterine Tumors Having High Signal Intensity Upon T2- Weighted Magnetic Resonance Imaging.,*Int J of Gynecological Cancer*,24(6),1042-1047,2014
4. Ueda, Y. Enomoto, T. Egawa-Takata, T. Morimoto, A. Sekine, M. Kimura, T., Japan's Failure to Vaccinate Girls against HPV, *Am J Obst G*, in press
5. Ugaki, H. Miyatake, T. Matsuzaki, N. Hashimoto, T. Ueda, Y. Enomoto, T., Serum white blood cell count (WBC) and plasma C reactive protein (CRP) values could be markers for acute pelvic inflammatory disease, *IJGORMR*, 1(1), 19-22, 2014
6. Ueda, Y. Sobue, T. Morimoto, A. Egawa-Takata, T. Hashizume, C.

- Kishida, H. Okamoto, S. Yoshino, K. FUjita, M. Enomoto, T. Tomine, Y. Fujiyoshi, J. Kimura, T., Evaluation of a free-coupon program for cervical cancer screening among the young: A nationally funded program conducted by local governments in Japan, *J Epidemio*, in press, 2014
7. Matsuzaki, S. Enomoto, T. Serada, S. Yoshino, K. Nagamori, S. Morimoto, A. Yokoyama, T. Kim A. Kimura, T. Ueda, Y. Fujita, M. Fujimoto, M. Kanai, Y. Kimura, T. Naka, T., Annexin A4-conferred platinum resistance is mediated by the copper transporter ATP7A, *Int J Cancer*, 134(8), 1796-809, 2014
 8. Takehiro Serikawa, Kenichi Nishiyama, Jun Tohyama, Ryushi Tazawa, Kiyoe Goto, Yoko Kuriyama, Kazufumi Haino, Yonehiro Kanemura, Mami Yamasaki, koh Nakata, Koichi Takakuwa, and Takayuki Enomoto., Prenatal molecular diagnosis of X-linked hydrocephalus Via a silent C924T mutation.in the LICAM gene. *Japanese Teratology Society* 54.243-245.2014
 9. The OCEAN Study Group (The Obstetrical Gynecological Society of Osaka): Morimoto, A. Ueda, Y. Takata-Egawa, T. Yagi, A. Terai, Y. Ohmichi. M. Ichimura, T. Sumi, T. Murata, H. Kanzaki, H. Nakai, H. Mandai, M. Yoshino, K. Fujita, M. Kimura, T. Saito, J. Sobue, T. Nishikawa, N. Sekine, M. nomoto, T. Horikoshi, Y. Takagi, T., Effect on HPV vaccination resulting from news report in Japan of adverse events and suspension of governmental recommendation for HPV vaccination, *Int J Clin Oncol*, in press, 2014 英原著
 10. Morimoto, A. Ueda, Y. Enomoto, T. Takata-Egawa, Tomomi. Matsuzaki, S. Kobayashi, E. Kimura, T. Yoshino, K. Fujita, M. Kimura, T., Endometrial cancer: current incidence, detection and management, NOVA Science Publishers, in press, 2014 英総説
 11. Sasamoto, N. Ueda, Y. Amemiya, K. Enomoto, T. Morii, E. Adachi, K., Endometrial adenocarcinoma arising in a patient of turner's syndrome with spontaneous menstruation: a case report and review of the literature, *J Reprod Med*, 59(2), 177-180, 2014 英症例報告
 12. 西野幸治 榎本隆之, 「卵巣がんの再発例への化学療法 プラチナ抵抗性」,産婦人科処方のすべてすぐに使える実践ガイド,臨床婦人科増刊号 vol68 no.4 201-203.2014
 13. 西野幸治、榎本隆之, 「卵巣がんの再発例への化学療法 プラチナ感受性」,産婦人科処方のすべてすぐに使える実践ガイド,臨床婦人科増刊号 vol.68

- no.4,198-200,2014
14. 西野幸治 榎本隆之,「CA125 再発と画像再発の診断差は何ヶ月くらいですか?」,婦人科癌診療 Q&A 一つ上をいく診療の実践,216-218,2014
 15. 高桑好一、高橋真紀子、吉田邦彦、能仲太郎、生野寿史、芹川武大、榎本隆之, 血栓・止血の異常と妊娠 12. 妊娠時のアスピリン療法, 産科と婦人科 80 85-90 2013
 16. Yamaguchi M, Yoshida K, Takano T, Enomoto T, Takakuwa K, Placenta previa and percreta with massive genital bleeding in the first trimester of pregnancy: A case report, *Open Journal of obstetrics and Gynecology*,3 690-693 2013
 17. Takehiro Serikawa, Koichi Takakuwa and Takayuki Enomoto, Management of Patients with Pregnancy-Associated Ovarian Clear Cell Carcinoma: A Mini-Review, *Gynecology & Obstetrics*,3(3) 1000159 2013
 18. Sosuke, Adachi., Takayuki, Enomoto., Molecular Biology of Endometriosis. Endometriosis: Risk Factors, Symptoms and Management, Pub.Date:2013-3rd Quarter, 2013,
 19. Hiromi, Ugaki. Yosiko, Komoto. Reisa, Kakubari. Eriko, Tanaka. Hisashi, Konishi. Toshihiro Kitai. Saori, Nakajima. Miho, Muraji. Takayuki, Enomoto. Masahiko, Takamura. Efficacy of Para-Aortic Lymphadenectomy in Ovarian Cancer: A Retrospective Study *J Canc Ther*,4,28-32,2013
 20. 榎本隆之 吉野潔, 広汎子宮頸部摘出術: 妊娠中も可能か?, *OGS NOW 婦人科がん手術こんなときどうする? がんの根治と QOL の改善を目指して*, 14, 54-63, 2013 (邦著書)
 21. 上田豊 榎本隆之 木村正, 【子宮体がん診療アップデート】治療のトピックス 進行・再発子宮体がんの治療(解説/特集), *臨床婦人科産科*, 67(5), 505-10, 2013(邦総説)
 22. Matsuzaki S, Enomoto T, Serada S, Yoshino K, Nagamori S, Morimoto A, Yokoyama T, Kim A, Kimura T, Ueda Y, Fujita M, Fujimoto M, Kanai Y, Kimura T, Naka T. Annexin A4-conferred platinum resistance is mediated by the copper transporter ATP7A. *Int J Cancer*. 2013 134 (8): 1796-1809
 23. Miyatake, T. Ueda, Y. Morimoto, A. Enomoto, T. Nishida, S. Shirakata, T. Oka, Y. Tsuboi, A. Oji, Y. Hosen, N. Nakatsuka, S. Morita, S. Skamoto, J. Sugiyama, H. Kimura, T., WT1 peptide immunotherapy for gynecologic malignancies resistant to conventional therapies: a phase II trial, *J Cancer Res Clin*, 139(3), 457-63, 2013
 24. Hiramatsu, K. Ueda, Y. Yoshino, K. Fujita, M. Morii, E. Enomoto, T. Kimura, T., Conization using

- Shimodaira-Taniguchi procedure for adenocarcinoma in situ of the uterine cervix, *Eur J Obstet Gyn R B*, 168(2):218-21, DOI: 10.1016/j.ejogrb. [Epub ahead of print], 2013
25. Yokoyama, T. Yoshino, K. Ueda, Y. Enomoto, T., Association between Endometriosis and Ovarian Cancer: A Review of Epidemiologic, Pathologic, Genetic, and Clinical Data, *Endometriosis: Risk Factors, Symptoms and Management*, Pub.Date:2013-3rd Quarter, 2013,
 26. Ueda, Y. Enomoto, T. Matsuzaki, S. Kobayashi, E. Kimura, T. Yoshino, K. Fujita, M. Tsutsui, T. Kimura, T., Taxane-sensitivity of ovarian carcinomas previously treated with paclitaxel and carboplatin, *Cancer Chemoth Pharm*, 71(6):1411-6, 2013
 27. Ueda, Y. Miyatake, T. Nagamatsu, M. Yamasaki, M. Nishio, Y. Yoshino, K. Fujita, M. Tsutsui, T. Enomoto, T. Kimura, T., A phase II study of a combination chemotherapy using docetaxel and irinotecan for TC-refractory or TC-resistant ovarian carcinomas (GOGO-OV2 Study) and for primary clear or mucinous ovarian carcinomas (GOGO-OV3 Study), *Eur J Obstet Gyn R B*, 170(1),259-63,2013
 28. Yoshino, K. Enomoto, T. Fujita, M. Ueda, Y. Kimura, T. Kobayashi, E. Tsutsui, T. Kimura, T., Salvage chemotherapy for recurrent or persistent clear cell carcinoma of the ovary: a single-institution experience for a series of 20 patients, *Int J Clin Oncol*, 18(1), 148-53, 2013
 29. Yokoyama, T. Enomoto, T. Serada, S. Morimoto, A. Matsuzaki, S. Ueda, Y. Yoshino, K. Fujita, M. Kyo, S. Iwahori, K. Fujimoto, M. Kimura, T. Naka, T., Plasma membrane proteomics identifies bone marrow stromal antigen 2 as a potential therapeutic target in endometrial cancer, *Int J Canc*, 132(2), 472-84, 2013
 30. Masatoshi, H. Tonsok, K. Hiromitsu, O. Izumi, I. Yuki, K. Takamichi, M. Atsushi, N. Takashi, U. Mitsuaki, T. Takayuki, E. Tadashi, K. Noriyuki, T., Endometrial cancer: preoperative staging Using three-dimensional T2-weighted turbo spin-echo and diffusion-weighted MR imaging At 3.0 T: a prospective comparative study, *Eur Radiol* 23, 2296-2305 2013
 31. Yoshihara, K., Tsunoda, T., Shigemizu D, Fujiwara, H., Hatae, M., Fujiwara, H., Masuzaki, H., Katabuchi, H., Kawakami, Y., Okamoto, A., Nogawa, T., Matsumura, N., Udagawa, Y., Saito, T., Itamochi, H., Takano, M., Miyagi, E., Sudo, T., Ushijima, K., Iwase, H., Seki, H., Terao, Y.,

- Enomoto, T., Mikami, M., Akazawa, K., Tsuda, H., Moriya, T., Tajima, A., Inoue, I., Tanaka, K. : High-risk ovarian cancer based on 126-gene expression signature is uniquely characterized by down-regulation of antigen presentation pathway. *Clin. Cancer Res.*, 18(5): 1374-85, 2012
32. Kanayama T., Yoshino K., Enomoto T., Ohashi H., Fujita M., Ueda Y., Kimura T., Kobayashi, E., Morii E., Kimura T., Primary retroperitoneal mucinous cystadenocarcinoma with mural nodules: a case report and literature review, *Int J Clin Oncol*, 17(4), 407-411, 2012
33. Kimura.T, Miyatake.T, Ueda.Y, Ohta.Y, Enomoto.T, Kimura.T, Kamiura.S, Cervical non-squamous carcinoma: an effective combination chemotherapy of taxane, anthracycline and platinum for advanced or recurrent cases, *Eur J Obstet Gyn Reprod Biol*, 2012, 164(2), 200-4,2012
34. Yokoyama,T., Enomoto, T., Serada, S., Morimoto, A., Matsuzaki, S., Ueda,Y., Yoshino, K., Fujita, M., Kyo, S., Iwahori, K., Fujimoto, M., Kimura, T., Naka, T. Plasma membrane proteomics identifies bone marrow stromal antigen 2 as a potential therapeutic target in endometrial cancer, *Int J Cancer*, 2012, doi: 10.1002/ijc.27679. [Epub ahead of print]
35. Hisamatsu, T., Mabuchi, S. Yoshino, K. Fujita, M. Enomoto, T. Hamasaki, T., Kimura, T. Prediction of progression-free survival and response to paclitaxel plus carboplatin in patients with recurrent or advanced cervical cancer, *Int J Gynecol Cancer*, 22(4), 623-9, 2012
36. Okazawa, M., Mabuchi, S. Isohahi, F., Suzuki, O., Ohta, Y., Fujita, M., Yoshino, K. Enomoto, T., Kamiura, S. Kimura, T., The prognostic significance of multiple pelvic node metastases in cervical cancer patients treated with radical hysterectomy plus adjuvant chemotherapy. *Int J Gynecol Cancer*, 22, 490-497, 2012
- (研究分担者：青木大輔)
1. Yamagami W, Susumu N, Ninomiya T, Kuwahata M, Takigawa A, Nomura H, Kataoka F, Tominaga E, Banno K, Tsuda H, Aoki D: A retrospective study on combination therapy with ifosfamide, adriamycin and cisplatin for progressive or recurrent uterine sarcoma. *Mol Clin Oncol*, 2: 591-595, 2014.
 2. Banno K, Yanokura M, Iida M, Adachi M, Nakamura K, Nogami Y, Umene K, Masuda K, Kisu I, Nomura H, Kataoka F, Tominaga E, Aoki D: Application of microRNA in diagnosis and treatment of ovarian cancer. *Biomed Res Int*, 2014: 232817, 2014.
 3. Nishio H, Yaguchi T, Sugiyama J,

- Sumimoto H, Umezawa K, Iwata T, Susumu N, Fujii T, Kawamura N, Kobayashi A, Park J, Aoki D, Kawakami Y: Immunosuppression through constitutively activated NF- κ B signalling in human ovarian cancer and its reversal by an NF- κ B inhibitor. *Br J Cancer*, 110: 2965-2974, 2014.
4. Hirasawa A, Masuda K, Akahane T, Ueki A, Yokota M, Tsuruta T, Nomura H, Kataoka F, Tominaga E, Banno K, Makita K, Susumu N, Sugano K, Kosaki K, Kameyama K, Aoki D: Family history and BRCA1/BRCA2 status among Japanese ovarian cancer patients and occult cancer in a BRCA1 mutant case. *Jpn J Clin Oncol*, 44: 49-56, 2014.
 5. Hirasawa A, Zama T, Akahane T, Nomura H, Kataoka F, Saito K, Okubo K, Tominaga E, Makita K, Susumu N, Kosaki K, Tanigawara Y, Aoki D: Polymorphisms in the UGT1A1 gene predict adverse effects of irinotecan in the treatment of gynecologic cancer in Japanese patients. *J Hum Genet*, 58: 794-798, 2013.
 6. Hirasawa A, Makita K, Akahane T, Yokota M, Yamagami W, Banno K, Susumu N, Aoki D: Hypertriglyceridemia is frequent in Endometrial Cancer Survivors. *Jpn J Clin Oncol*, 43: 1087-1092, 2013.
 7. Katsumata N, Yasuda M, Isonishi S, Takahashi F, Michimae H, Kimura E, Aoki D, Jobo T, Kodama S, Terauchi F, Sugiyama T, Ochiai K: Long-term results of dose-dense paclitaxel and carboplatin versus conventional paclitaxel and carboplatin for treatment of advanced epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer (JGOG 3016): a randomised, controlled, open-label trial. *Lancet Oncol*, 14: 1020-1026, 2013.
 8. Kataoka F, Nomura H, Nogami Y, Arima H, Sawano Y, Banno K, Fujii T, Aoki D: Evaluation of clinical usefulness of a medical monitor equipped with an organic electroluminescence panel in comparison with liquid crystal display monitors. *J Minim Invasive Gynecol*, 20: 522-528, 2013.
 9. Hirasawa A, Sato T, Ueno M, Akahane T, Susumu N, Betsuyaku T, Aoki D: Distinguishing between lymphangiomyomatosis and carcinomatous peritonitis in a patient with ovarian cancer. *J Clin Oncol*, 31: e427-429, 2013.
 10. Banno K, Nogami Y, Kisu I, Yanokura M, Umene K, Masuda K, Kobayashi Y, Yamagami W, Susumu N, Aoki D: Candidate biomarkers for genetic and clinicopathological diagnosis of endometrial cancer. *Int J Mol Sci*, 14: 12123-12137, 2013.

11. Nishio H, Fujii T, Sugiyama J, Kuji N, Tanaka M, Hamatani T, Miyakoshi K, Minegishi K, Tsuda H, Iwata T, Tanaka K, Fukuchi T, Takehara Y, Yoshimura Y, Aoki D: Reproductive and obstetric outcomes after radical abdominal trachelectomy for early-stage cervical cancer in a series of 31 pregnancies. *Hum Reprod*, 28: 1793-1798, 2013.
12. Hirasawa A, Masuda K, Akahane T, Tsuruta T, Banno K, Makita K, Susumu N, Jinno H, Kitagawa Y, Sugano K, Kosaki K, Aoki D: Experience of risk-reducing salpingo-oophorectomy for a BRCA1 mutation carrier and establishment of a system performing a preventive surgery for hereditary breast and ovarian cancer syndrome in Japan: our challenges for the future. *Jpn J Clin Oncol*, 43: 515-519, 2013.
13. Chiyoda T, Sugiyama N, Shimizu T, Naoe H, Kobayashi Y, Ishizawa J, Arima Y, Tsuda H, Ito M, Kaibuchi K, Aoki D, Ishihama Y, Saya H, Kuninaka S: LATS1/WARTS phosphorylates MYPT1 to counteract PLK1 and regulate mammalian mitotic progression. *J Cell Biol*, 2012, 197(5): 625-641.
14. Chiyoda T, Tsuda H, Tanaka H, Kataoka F, Nomura H, Nishimura S, Takano M, Susumu N, Saya H, Aoki D: Expression profiles of carcinosarcoma of the uterine corpus-are these similar to carcinoma or sarcoma? *Genes Chromosomes Cancer*, 2012, 51(3): 229-239.
15. Murakami I, Fujii T, Kameyama K, Iwata T, Saito M, Kubushiro K, Aoki D: Tumor volume and lymphovascular space invasion as a prognostic factor in early invasive adenocarcinoma of the cervix. *J Gynecol Oncol*, 2012, 23(3): 153-158.
16. Nomura H, Tsuda H, Kataoka F, Chiyoda T, Yamagami W, Tominaga E, Susumu N, Aoki D: Retrospective study comparing irinotecan and pegylated liposomal doxorubicin in treatment of recurrent platinum-refractory/resistant epithelial ovarian cancer. *Eur J Gynaecol Oncol*, 2012, 33(1): 86-89.
17. Shibata TK, Matsumura F, Wang P, Yu S, Chou CC, Khoo KH, Kitayama K, Akama TO, Sugihara K, Kanayama N, Kojima-Aikawa K, Seeberger PH, Fukuda M, Suzuki A, Aoki D, Fukuda MN: Identification of mono- and disulfated N-acetyl-lactosaminyl Oligosaccharide structures as epitopes specifically recognized by humanized monoclonal antibody HMOCC-1 raised against ovarian

cancer. *J Biol Chem*, 2012, 287(9): 6592-6602.

18. Tanaka H, Tsuda H, Nishimura S, Nomura H, Kataoka F, Chiyoda T, Tanaka K, Iguchi Y, Susumu N, Aoki D: Role of circulating free alu DNA in endometrial cancer. *Int J Gynecol Cancer*, 2012, 22(1): 82-86.
19. Toyama A, Suzuki A, Shimada T, Aoki C, Aoki Y, Umino Y, Nakamura Y, Aoki D, Sato TA: Proteomic characterization of ovarian cancers identifying annexin-A4, phosphoserine aminotransferase, cellular retinoic acid-binding protein 2, and serpin B5 as histology-specific biomarkers. *Cancer Sci*, 2012, 103(4): 747-755.

(研究分担者：青谷恵利子)

1. J. Westendorp, L. Ness, A. Klimaszewski, K. Willenberg, J. Eggert, M. Bacon, J. Egger, M. Bacon, (Edited), Eriko Aotani, Yuko Saito, et al. *The Manual for Clinical Trials Nursing*, 3rd edition. Section XII International Clinical Trials Research – Chapter 60. *Oncology Nursing Society*: Pittsburgh: PA, in press.
2. 小林史明、伊豆津美和 (編著). 青谷恵利子、笠井宏委、風見葉子他【執筆協力】. もっと知りたい 医師主導治験の Q&A . 株式会社 じほう . 2014 年 11 月 23 日 .
3. 谷岡哲也、上野修一、安原由子、

真野元四朗、高橋みどり【監訳】【分担翻訳】青谷恵利子、上田伊佐子、大坂京子 他 . *Technological Competency As Caring in Nursing: A Model for Practice*. 現代の看護におけるケアリングとしての技術力：実践のためのモデル 第 2 版. 第 3 章 トロイの木馬の中にあるもの：テクノロジー、意識性、看護のメタパラダイム . ふくろう出版 . 2013 年 10 月 18 日 .

4. 渡辺亨、大橋靖男、齋藤裕子、青谷恵利子【責任編集】【分担執筆】*がん臨床試験テキストブック* . [Principle and Practice of Clinical Trials in Oncology]. 医学書院 . 2013 年 10 月 .
5. 秦友美、○青谷恵利子、野中美和、川上温子、金津佳子、坪井沙絵、藤原恵一、紀川純三、落合和徳 . *がん領域における研究者主導臨床試験の安全性情報マネジメント* . *Jpn Pharmacol Ther* 2013; 41 suppl 2 [Journal of Japan Society of Clinical Trials and Research] : S128-136 . September 25, 2013.
6. Fujiwara K, Nagao S, Aotani E, Hasegawa K. Principle and evolving role of intraperitoneal chemotherapy in ovarian cancer. *Expert Opin Pharmacother*. 2013 Sep;14(13):1797-806.
7. ○青谷恵利子 . 臨床試験を運営するために必要な組織:15. 中央事務局 . 循環器病学における臨床研究—いかに確実に臨床に還元する

か . 医学のあゆみ
244(13):1173-1177,2013年3月30
日 .

8. 青谷恵利子、竹内正弘、藤原恵一、
落合和徳 . 婦人科がんの臨床試験 .
遙か EPS Magazine, vol.8, 33-38,
2013年1月20日 .
9. Øyvind Melien, Eriko Aotani,
Cleola Anderiesz, et al. Report
from subgroup ducation, Training,
Infrastructure and Patient
Involvement under OECD GSF
working group to facilitate
international cooperation in
non-commercial clinical trials. Jpn
Pharmacol Ther 2012; 40 suppl 2
[Journal of Japan Society of Clinical
Trials and Research] :S137-182 .
October 5, 2012.
10. 青谷恵利子 . HAM/TSP 国際共同
試験の体制整備に関する研究 . 厚生
労働科学研究費補助金 (難治性
疾患克服研究事業) (H23-難治-一
般 -126) HTLV-1 関連脊髄症
(HAM) の新規医薬品開発に関
する研究 研究代表者 山野嘉
久 分担研究報告書 . 2012年4
月